

兵庫県養父郡八鹿町所在

# 大田和遺跡

—但馬長寿の郷建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

平成16年3月  
(2004)

兵庫県教育委員会



大田和遺跡遠景（南から）



大田和遺跡遠景（南東から）



大田和遺跡 A-1 地区全景（南東から）



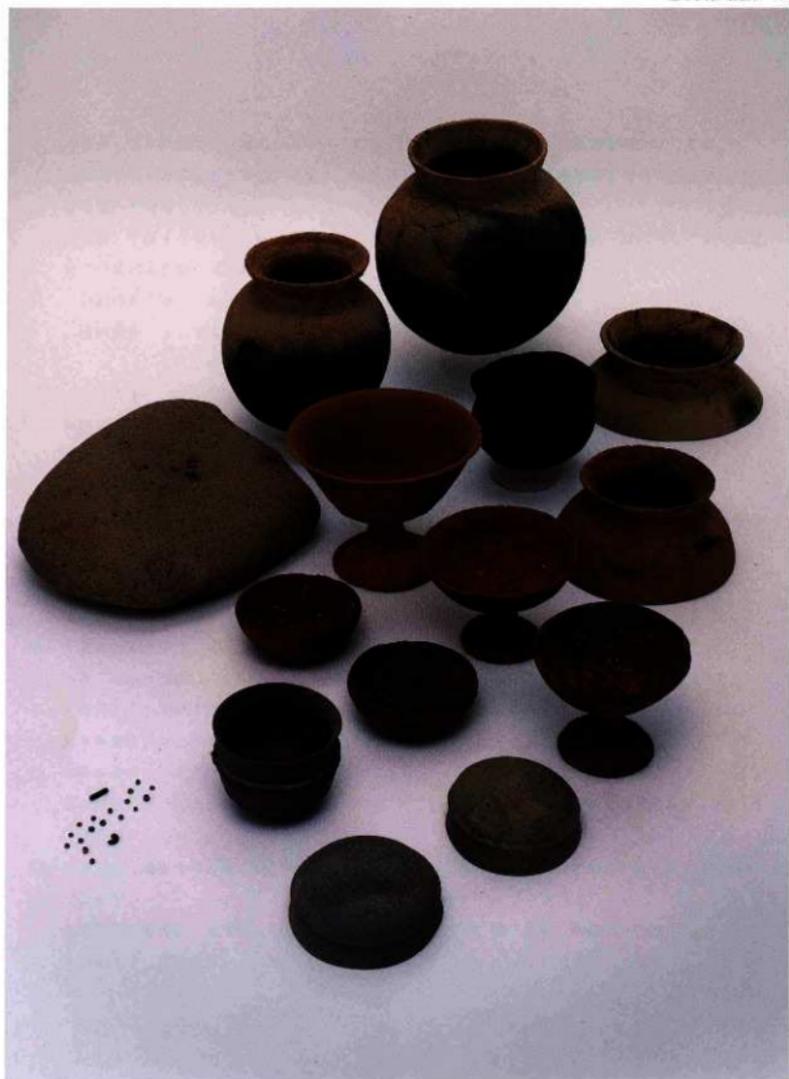
大田和遺跡 A-1 地区全景（南東から）



SH03全景（北から）



SH08全景（東から）



大田和遺跡出土古墳時代遺物

## 例 言

1. 本書は、兵庫県養父郡八鹿町小山に所在する大田和遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査ならびに整理作業は、兵庫県土地開発公社の依頼を受けて兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が実施した。
3. 調査は、平成4年度から平成8年度の延べ4カ年にわたって実施した。それぞれの調査の実施年度および遺跡調査番号は下記の通りである。

詳細分布調査	平成4年度	遺跡調査番号	(920217・920378)
確認調査	平成6年度	遺跡調査番号	(940325・940326)
	平成7年度	遺跡調査番号	(950397)
全面調査	平成8年度	遺跡調査番号	(960122)
4. 整理作業は、平成14・15年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所に於いて実施した。
5. 本書において使用した座標値は、旧国土地標V系を基準にし、水準は東京湾平均海水準（T・P）を使用した。また、方位は座標北を指す。
6. 本書の挿図の第1図、第6図は、国土地理院発行の5万分の1「村岡」「出石」を使用した。第7図は八鹿町教育委員会発行の遺跡分布地図をもとに作成した。
7. 遺物実測図については、断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器、断面を白ヌキのものは土師器・瓦器をそれぞれ示している。
8. 土層などの色調は小山目正忠・竹原秀雄編著「新版 標準土色帖」1992年版を使用した。
9. 本書の遺構写真は、調査担当者が、遺物写真は株式会社イーストマンに委託して撮影を行った。
10. 本書にかかる出土遺物・写真などの関係資料は、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所および、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所魚住分館にて保管している。
11. 本書の編集は、柏原美音の補助を得て岡本が実施した。執筆分担は目次に示した通りである。第5章の自然科学分析大田和遺跡出土玉類の産地分析については黨科哲男（京都大学原子炉実験所）氏に御寄稿いただいた。
12. 現地調査、整理作業の際には、下記の方々にご指導、ご教示、ご援助をいただいた。記して感謝いたします。

八鹿町教育委員会、但馬考古学研究会、久保弘幸、篠宮正、瀬戸谷皓、瀬崎誠、谷本進、山根実生子、黨科哲男

## 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	(岡本)	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2節 分布調査・詳細分布調査の経過		1
第3節 確認調査の経過		1
第4節 全面調査の経過		2
第5節 整理作業の経過		3
第2章 遺跡をとりまく環境	(岡本)	9
第1節 地理的環境		9
第2節 歴史的環境		10
第3章 大田和遺跡の調査	(岡本)	15
第1節 遺跡の概要		15
第2節 A-1地区の遺構		15
第3節 A-2地区の遺構		17
第4節 B地区の遺構		18
第5節 遺物		18
1. 土器		18
2. 石製品		21
3. 玉類		21
4. 金属製品		22
第4章 自然科学分布	(薬科)	23
大田和遺跡出土緑泥石片岩様玉類の産地分析		
第5章 まとめ	(西口・岡本)	28
第1節 遺構について		28
第2節 遺物について		28

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置(日本全国・全県・町域・周辺)	v
第2図 但馬長寿の郷計画図	5
第3図 平成4・6・7年度詳細分布調査・確認調査トレンチ位置図	6
第4図 A-1地区地区割り図	7
第5図 B地区地区割り図	8
第6図 八鹿町周辺の地形図	9
第7図 大田和遺跡周辺の遺跡	12

第8図	大田和遺跡周辺の古墳	14
第9図-1	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製小白玉1013(89157)の蛍光X線スペクトル	26
第9図-2	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製小白玉1011(89158)の蛍光X線スペクトル	26
第9図-3	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製管玉1015(89159)の蛍光X線スペクトル	26
第10図	クラスター分析結果	27
第11図	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類のESRスペクトル	27

## 本文写真目次

写真1	A-1地区調査風景	4
写真2	B地区調査風景	4
写真3	A-2調査風景	17

## 表目次

第1表	大田和遺跡周辺の遺跡	13
第2表	大田和遺跡周辺の古墳	14
第3表	分析玉類一覧	25
第4表-1	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類の元素分析値の比量と比重	25
第4表-2	大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類の元素分析値の比量と比重	25
第5表	大田和遺跡土器観察表	30
第6表	大田和遺跡金属製品観察表	34
第7表	大田和遺跡石製品観察表	34
第8表	大田和遺跡玉類観察表	35

## 図版目次

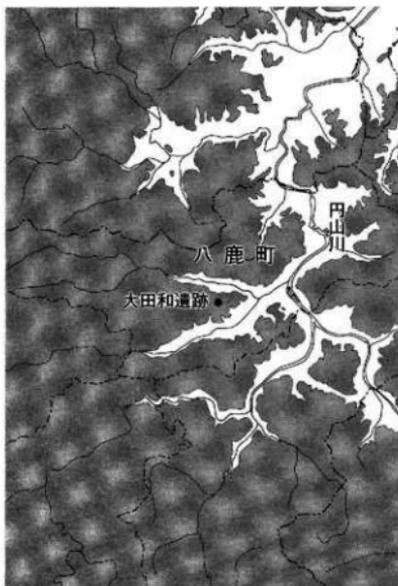
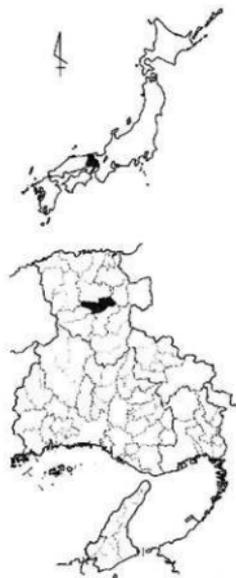
図版1	大田和遺跡調査区設定図
図版2	A-1地区調査前地形図
図版3	A-1地区調査後地形図
図版4	A-1地区遺構配置図
図版5	竪穴住居(1)
図版6	竪穴住居(2)
図版7	竪穴住居(3)
図版8	竪穴住居(4)
図版9	擁立柱建物
図版10	中世盛土状遺構
図版11	調査区北側壁土層
図版12	土坑

- 図版13 B地区調査前地形図  
 図版14 B地区調査後地形図  
 図版15 B地区遺構配置図  
 図版16 大田和古墳確認調査トレンチ配置図  
 図版17 大田和古墳全体図  
 図版18 SH03出土土器  
 図版19 SH08・10出土土器  
 図版20 土坑・谷状地形出土土器  
 図版21 盛土状遺構出土土器  
 図版22 包含層出土土器  
 図版23 確認調査出土土器  
 図版24 SH03出土石器(1)  
 図版25 SH03出土石器(2)  
 図版26 SH03出土石器(3)  
 図版27 包含層・盛土状遺構出土石器  
 図版28 出土玉類・金属製品

## 写真図版目次

- 巻頭図版1 大田和遺跡遠景(南から)  
 大田和遺跡遠景(南東から)  
 巻頭図版2 大田和遺跡A-1地区全景(南東から)  
 大田和遺跡A-1地区全景(南東から)  
 巻頭図版3 SH03全景(北から)  
 SH08全景(東から)  
 巻頭図版4 大田和遺跡出土古墳時代遺物
- 写真図版1 大田和遺跡空中写真(南東から)  
 大田和遺跡空中写真(南から)  
 写真図版2 大田和遺跡全景(南東から)  
 大田和遺跡全景(南東から)  
 写真図版3 大田和遺跡調査前A-1地区全景(南東から)  
 大田和遺跡調査前A-1地区全景(東から)  
 写真図版4 大田和遺跡調査前A-1地区全景(南東から)  
 大田和遺跡調査前A-1地区全景(南西から)  
 写真図版5 大田和遺跡全景(南東から)  
 大田和遺跡全景(南東から)  
 写真図版6 大田和遺跡全景(南東から)  
 大田和遺跡全景(南東から)  
 写真図版7 SH01(南東から)

- SH01 (北東から)
- 写真図版8 SH03 (東から)  
SH03 (北から)
- 写真図版9 住居状遺構 (東から)  
住居状遺構 (東から)
- 写真図版10 SH08 (南東から)  
SH08 (南東から)  
SH08 (北東から)
- 写真図版11 SH09 (南から)  
SH09 (南東から)
- 写真図版12 SH10 (南西から)  
SH10 (南西から)
- 写真図版13 SH11 (南西から)  
SH11 (東から)
- 写真図版14 掘立柱建物 (北から)  
集石土坑 (西から)  
焼土坑 (北から)
- 写真図版15 盛土状遺構 (南東から)  
盛土状遺構 (東から)  
盛土状遺構土層断面 (北西から)
- 写真図版16 大田和遺跡調査前B地区全景 (東から)  
大田和遺跡調査前B地区全景 (東から)
- 写真図版17 大田和遺跡B地区調査後全景 (南東から)  
大田和遺跡B地区調査後全景 (東から)
- 写真図版18 大田和遺跡B地区テラス状遺構 (東から)  
大田和遺跡B地区テラス状遺構 (南から)
- 写真図版19 大田和遺跡B地区テラス状遺構 (南から)  
大田和遺跡B地区テラス状遺構 (北から)
- 写真図版20 確認調査
- 写真図版21 確認調査
- 写真図版22 出土土器 (1)
- 写真図版23 出土土器 (2)
- 写真図版24 出土土器 (3)
- 写真図版25 確認調査出土土器 (4)
- 写真図版26 出土石器 (1)
- 写真図版27 出土石器 (2)
- 写真図版28 出土石器 (3)
- 写真図版29 出土石器 (4)
- 写真図版30 出土玉類・金属製品



第1図 遺跡の位置 (日本全国・全県・町域・周辺)

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

但馬長寿の郷建設事業に伴い、兵庫県福祉部長寿社会政策局福祉企画室より事業予定地内の埋蔵文化財の所在について兵庫県教育委員会に分布調査の依頼があった。これを受けて、事業予定地内の埋蔵文化財の調査を実施した。

## 第2節 分布調査・詳細分布調査の経過

分布調査（平成4年度） 遺跡調査番号920217

調査担当者	企画調整班 平田博幸 広野 誠
	調査第3班 高井治巳
調査期間	平成4年7月7日～7月8日
調査面積	10ha
調査結果	調査範囲中、22カ所において遺跡の可能性が高い地点を確認した。特に長寿の郷建設事業対象地内で須恵器片を採取する。地形（緩斜面）を勘案して、遺跡の存在の可能性が高いと判断する。

詳細分布調査（平成4年度） 遺跡調査番号920378

調査担当者	企画調整班 平田博幸
調査期間	平成5年2月15日～2月18日
調査面積	30㎡
調査結果	1×10mのトレンチを2本設定し、遺構の確認を行った。（第3図参照）各トレンチからは遺構、遺物は検出できなかったが、トレンチ2のすぐ南の旧道でピット群と堅穴住居跡状の遺構の断面を確認した。

## 第3節 確認調査の経過

上記の分布調査、詳細分布調査の結果を受け、3次にわたる確認調査を実施し遺跡の範囲の確認を行った。

第1次確認調査（平成6年度） 遺跡調査番号940325

調査担当者	企画調整班 西口圭介
調査期間	平成6年9月12日～10月6日
調査面積	214.4㎡
調査結果	6カ所にトレンチを設定した。（第3図参照）3号、5号、5号-2トレンチにおいて遺構を、1号、2号、4号トレンチより遺物を検出した。特に3号トレンチからは2時期の住居跡を検出した。2号トレンチからは完形に近い土器片が出土した。大田和古墳は直径約30mの列石を持つ大型の円墳であることが確認できた。周溝内から6

世紀初頭の須恵器坏蓋が出土したことから、築造の時期も従来考えられてきた時期よりも古くなることが確認できた。

**第2次確認調査（平成6年度） 遺跡調査番号940326**

調査担当者 企画調整班 西口圭介  
調査期間 平成6年10月18日～11月4日  
調査面積 214.4㎡  
調査結果 14カ所にトレンチを設定した。（第3図参照）8号トレンチの北端において土坑1基を、7号トレンチからは若干の遺物を検出した。6号トレンチの東端から幅1m、深さ0.4mの溝を検出した。古墳の周溝かどうか確認のため6A・Bトレンチを設定し追加調査を実施したが、主体部は検出されなかった。12号、13号トレンチからも遺構を検出している。

**第3次確認調査・第2次分布調査（平成7年度） 遺跡調査番号950397**

調査担当者 調査第1班 大平 茂  
調査期間 平成8年3月11日～3月15日  
調査面積 134㎡  
調査結果 11カ所にトレンチを設定し確認を行った。（第3図参照）A-3トレンチから土師器が出土した。B-5トレンチでは段状遺構を確認し、土師器もしくは弥生土器片が出土した。

## 第4節 全面調査の経過

**大田和遺跡（平成8年度） 遺跡調査番号960122**

前記の分布調査、確認調査（遺跡調査番号920217、920378、940325、940326、950397）の結果を受けて兵庫県土地開発公社より平成8年3月27日付け、兵土公第519号で依頼があり、全面調査を実施した。調査はA-1、A-2、Bの3地区に分け（第3図参照）実施した。

発掘調査に当たっては、兵庫県教育委員会が株式会社明生建設と委託契約を締結し実施した。

**発掘調査事業参加者**

調査担当者 主 査 西口圭介  
技術職員 岡本一秀  
現場補助員 高木克彦  
現場事務員 成田幸子  
室内作業員 田中智子 中道かおり  
調査期間 平成8年5月15日～10月23日  
調査面積 3120㎡  
調査結果 第3章参照

## 第5節 整理作業の経過

出土遺物の整理作業は、平成14年度より埋蔵文化財調査事務所において実施した。

整理作業参加者

平成14年度 接合・補強・復元・金属製品保存処理・実測・写真撮影を実施。写真撮影は株式会社イーストマンに委託した。

整理担当職員

整理保存班 技術職員 岡本一秀（工程管理）  
主 査 加古千恵子（金属製品保存処理）

調査第2班 主 査 西口圭介

非常勤嘱託員

（接合・補強・復元）企画技術員 吉田優子 喜多山好子 眞子ふさ恵 石野黒代  
図化技術員 中田明美 蔵幾子 大仁克子  
（金属製品保存処理）図化技術員 西野淳子 三好綾子 藤井光代  
図化補助技術員 三島重美  
（実測・写真補助）主任技術員 柏原美音  
図化技術員 津田友子

平成15年度 遺構図補正・トレース・レイアウトを実施した。

整理担当職員

整理保存班 主 査 菱田淳子（工程管理）  
主 任 岡本一秀

調査第3班 主 査 西口圭介

非常勤嘱託員

主任技術員 柏原美音  
図化技術員 津田友子

### 大田和遺跡調査日誌抄

全面調査 平成8年5月15日～平成8年10月23日

- 6月3日 調査開始。B地区の機械掘削開始。
- 6月7日 I-A・B区の人力掘削を開始する。
- 6月10日 I-B・C区よりテラス状地形を検出するが遺物は伴わない為、時期、性格は不明。
- 6月17日 III-C区で谷状地形を検出。土師器片2点出土。
- 6月19日 B地区の全景写真の撮影を行う。A地区の機械掘削開始。
- 6月28日 IV-B区で盛土状遺構を検出する。
- 7月2日 盛土状遺構の精査を行う。周囲より石列が検出される。
- 7月22日 IV-A区の表土直下よりピット群を検出する。
- 7月24日 V-A、IV-A区の精査を行う。ピットを4穴検出する。
- 7月26日 IV-B区で竅穴住居を2棟検出する。

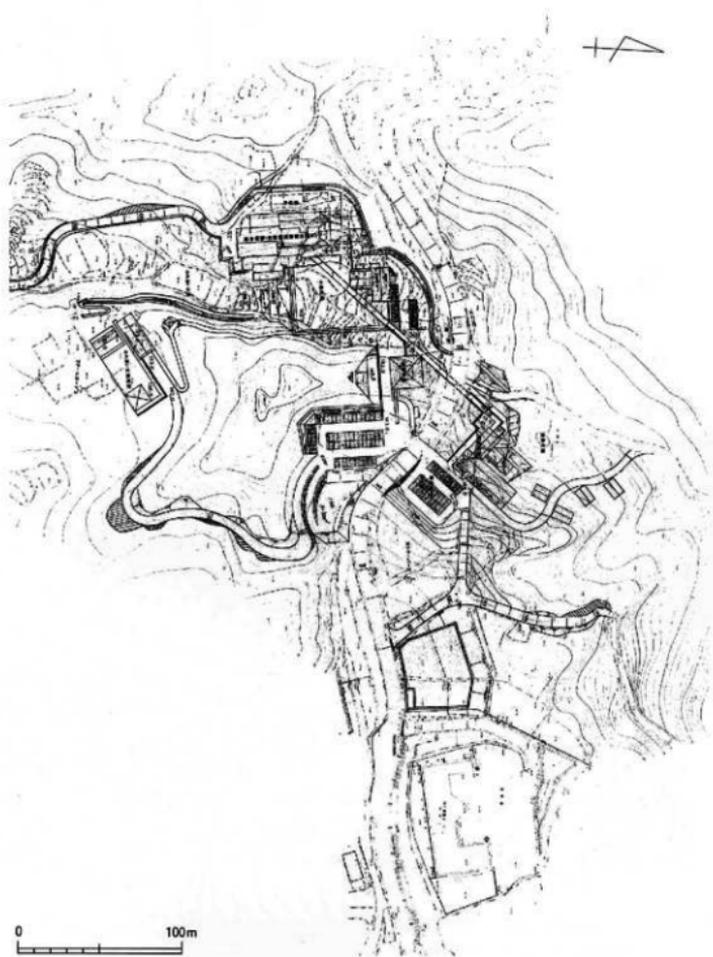
- 7月29日 IV-B区の住居跡の検出状況の写真撮影後、遺構の掘り下げを行う。SH03は検出面から5cm掘り下げたところで多量の土師器破片が出土した。
- 7月31日 SH07の床面精査を行う。地山に黒褐色の土が入っており、別遺構が切り合っていると考えられるが、前後関係は不明。SH08の床面直上より土師器高坏片が出土。
- 8月10～18日 盆休みのため現場作業中断。
- 8月20日 IV-B区の精査を行う。トレンチを入れたところ黒色土と褐色土との境を検出する。さらに精査をした結果、住居跡と判断する。
- 8月30日 IV-B区の中世の盛土を除去する。
- 9月2日 IV-B区のSH10の掘り下げを行う。住居跡の範囲は調査区外に広がる。住居跡南東SE区より祭祀用と思われるミニチュア土器が1点出土した。他にも破片があると判断し埋土を持ち帰り水洗選別した。
- 9月3日 昨日持ち帰ったSH10の埋土より白玉1点が見つかった。
- 9月17日 SH10の全体を調査するため一部調査区を拡張する。
- 9月19日 SH10を完掘し、全景写真の撮影を行う。
- 9月18日 SH03の土坑埋土を水洗選別したところ、勾玉1点が出土した。
- 10月4日 調査区全景写真の撮影を行う。
- 10月5日 空中写真撮影を行う。
- 10月8日 個別の遺構の全景写真の撮影を行う。
- 10月17日 各遺構の断ち割り、平面実測を行う。
- 10月25日 平面実測が完了する。現地での調査を終了する。



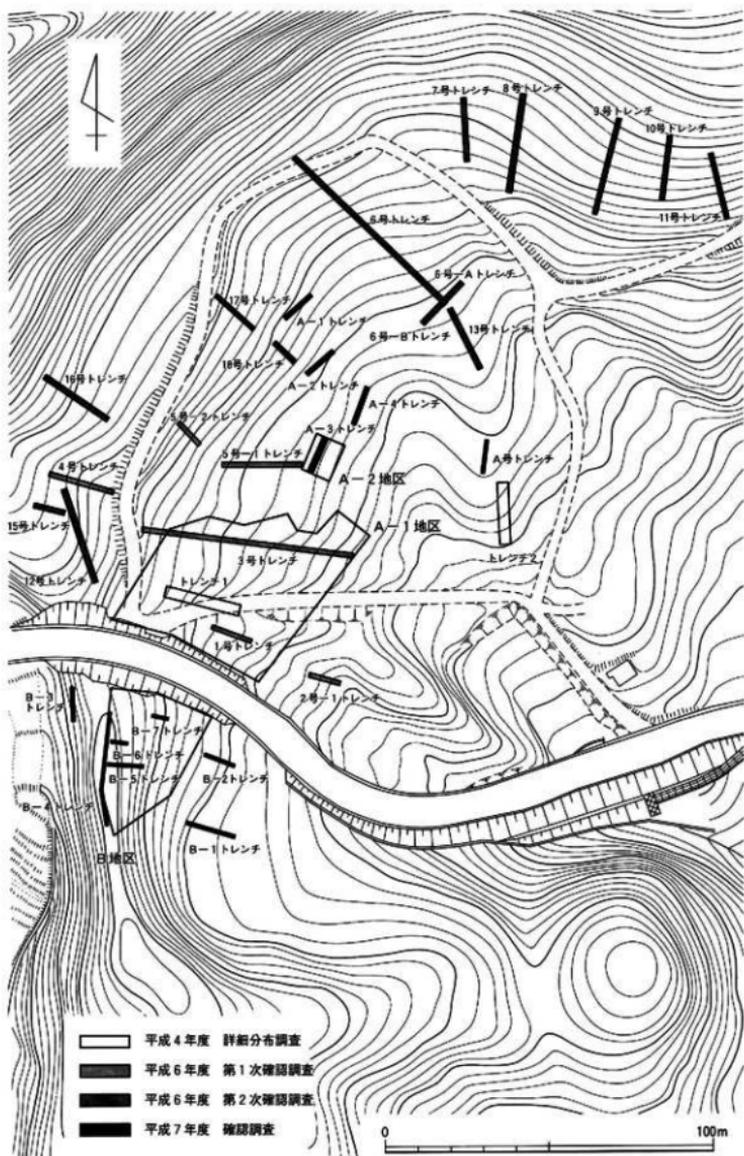
写真1 A-1地区調査風景



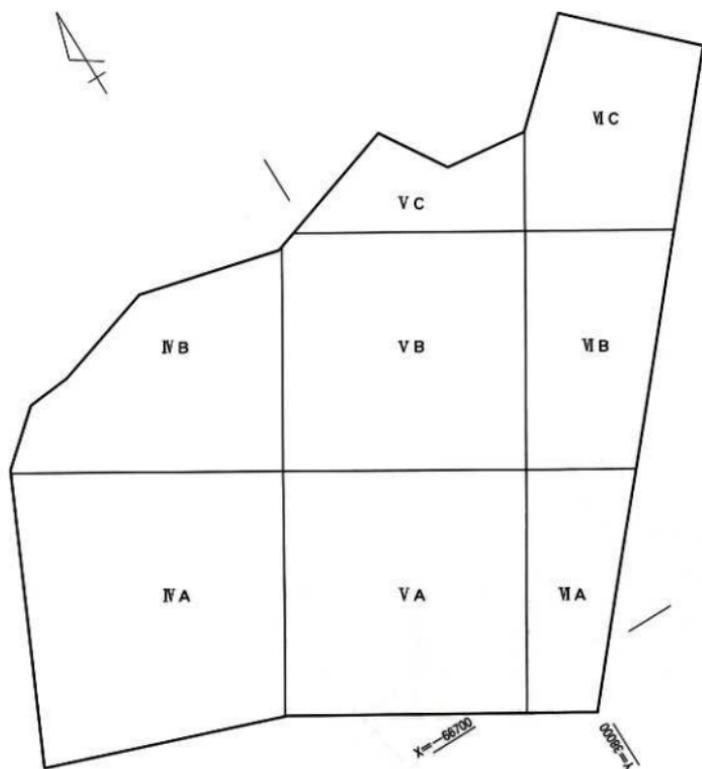
写真2 B地区調査風景



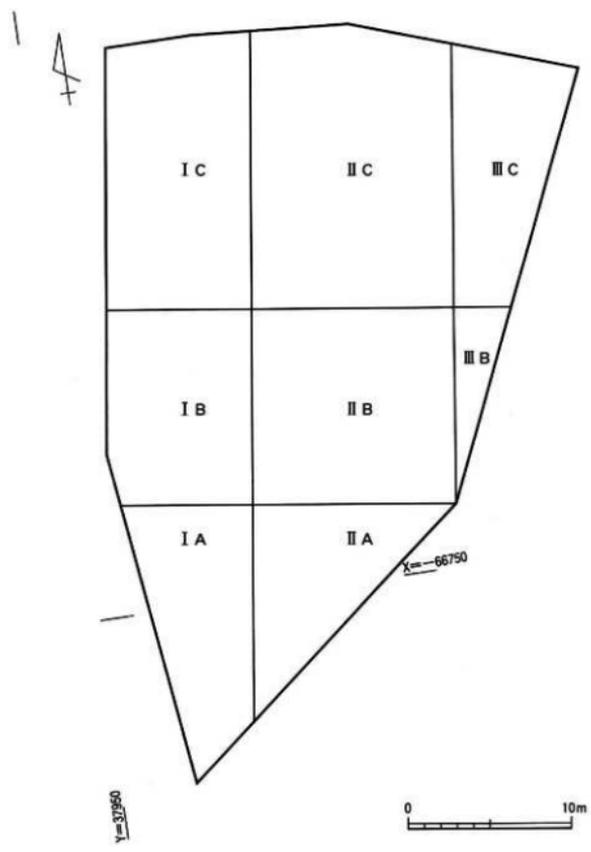
第2図 但馬長寿の郷計面図



第3図 平成4・6・7年度詳細分布調査・確認調査トレンチ位置図



第4図 A-1地区地区割り図



第5図 B地区地区割り図

## 第2章 遺跡をとりまく環境

### 第1節 地理的環境

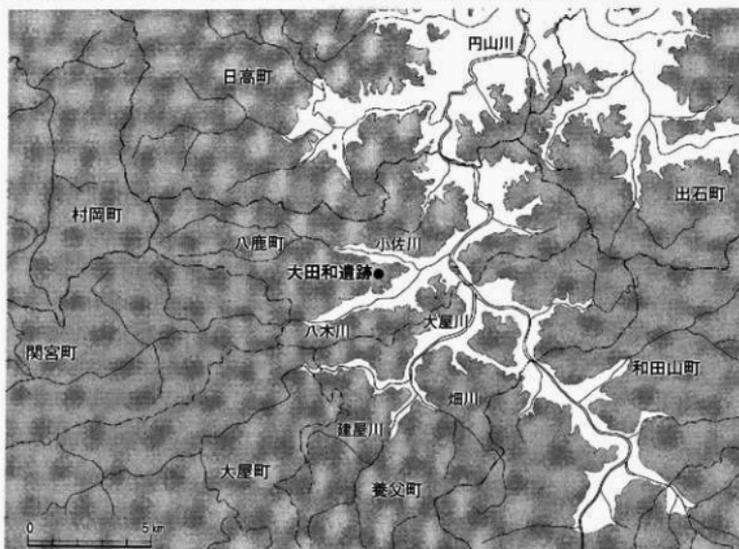
大田和遺跡は、兵庫県北部の養父郡八鹿町に所在する。八鹿町は、東を出石郡出石町、南を養父郡養父町・大屋町、西は関宮町、美方郡村岡町、北は城崎郡日高町に接する。

八鹿町の沿革は、明治22年の町村制施行によって養父郡八鹿村、高柳村、伊佐村、宿南村が成立し、大正2年八鹿村は町制を施行、昭和30年になって八鹿町と高柳村、伊佐村、宿南村のうち大字赤崎・浅倉を除く地域が合併し、面積77.06km<sup>2</sup>、人口1万2千人余りの今日の八鹿町の姿となっている。

八鹿町の全体的な地勢は、町域の約7割が中国山地へと続く但馬山地により占められている。山地は町の西端に位置する標高1142mの妙見山を最高峰とする100～300mの標高の山塊が連なっている。町内を流れる主な河川は、円山川が町域の東側を蛇行しながら日本海へと北流する。円山川は本流の延長67.7km、流域面積1298.5km<sup>2</sup>を測る但馬を代表する河川である。円山川支流の八木川は、町域の南側を、小佐川は町域の中央を東西方向に東流して町の中心部付近で円山川に合流する。現在の集落は、これらの河川の開析によりできた沖積地上に営まれている。

また、八鹿町は、円山川と市川の水系が結ばれた道と加古川と由良川を結ぶ道から分岐して夜久野峠を越えて山東町から円山川水系に入る道、佐治川から遠坂峠を越え山東町から円山川水系に入る道など瀬戸内、畿内と山陰側を結ぶ様々な道が交差する古来からの交通の要衝でもある。

大田和遺跡は八木川と小佐川に挟まれた妙見山から伸びる山塊の中腹に位置する遺跡である。遺跡の位置は標高約150mに位置し、麓の八木川の沖積平野との比高差は約100mほどである。



第6図 八鹿町周辺の地形図

## 第2節 歴史的環境

八鹿町域を中心とした、主として南但馬地域の縄文時代から古代までの遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡は、ナイフ形石器が出土している関宮町の杉ヶ沢遺跡、別宮家野遺跡、三宅西谷遺跡、吉井円光寺遺跡、養父町の石ヶ堂遺跡が知られている。

縄文時代の集落遺跡は、兎和野、鉢伏、杉ヶ沢、上山、熊野など水ノ山山系や神鍋高原などの山岳地帯を中心に分布している。養父町の熊野遺跡では早期から前期の遺物が出土している。日高町の神鍋遺跡では、早期以来各時期の遺物が採取されているが、発掘調査によって前期の堅穴住居が検出された。縄文時代後期から晩期になると、河川の沖積地や山地の縁辺部にも生活の拠点が進出してくようになる。関宮町小路頃オノ木遺跡では、後期の堅穴住居跡が検出されている。日高町の柿布ヶ森遺跡や和田山町の高瀬遺跡は、河川に沿った低地に遺跡が立地する。和田山町の筒江片引遺跡からは晩期後半の深鉢形土器が出土している。

弥生時代の集落遺跡は、和田山町の筒江片引遺跡、八鹿町の東家ノ上遺跡、赤尾遺跡、関宮町の前川向遺跡、門口遺跡、養父町の犬野遺跡、広瀬遺跡が知られている。東家ノ上遺跡と赤尾遺跡は、尾根上に立地して、周囲に溝を巡らせた高地性集落の性格を持つ遺跡である。墳墓の遺跡は、八鹿町の米里遺跡で中期の円形周溝墓が検出されている。八木西宮遺跡では方形周溝墓が確認されている。また、山東町の栗鹿遺跡からは、山陰地方に多く見られる貼り石を巡らせた墳丘墓が見ついている。弥生時代から古墳時代にかけての過渡期には和田山町の梅田東古墳群で丘陵の尾根上に墳丘墓が築かれている。

南但馬における古墳時代前期の代表的な古墳は、波文帯三角縁三神三獣鏡が出土した城ノ山古墳、四葉乳文鏡が出土した梅田1号墳が知られている。城の山古墳は墳丘の直径が30mを越える円墳で、但馬における畿内的な様相を持つ初期の古墳として関心を集めている。山東町の東南山2号墳では珠文鏡が出土している。同じく山東町の若水A11号墳からは、内行花文鏡と国内では出土例が10例にも満たない飛禽鏡が出土している。八鹿町内では、沖田古墳群、東家の上古墳群、小山古墳群、中山古墳群、国木とが山古墳群が築かれる。大田和遺跡の北東の尾根上に位置する西家の上3号墳からは内行花文鏡が出土しており、4世紀後半と考えられている。また、特筆すべき事例としては、小山3号墳第4主体と源氏山1号墳第7主体は、国内でも数例しか確認例のない石槨を伴う土器棺墓として知られている。

中期になると全長128mの周溝をもつ、但馬で最大級の規模を誇る前方後円墳の池田古墳や、二仙四獣形鏡の他、豊富な副葬品が出土し、墳丘の規模が直径86mで但馬でも最大級の円墳である茶すり山古墳、5世紀後半には前方後円墳の船宮古墳、カチヤ古墳、円墳では茶臼山古墳、庵ノ谷2号墳が築かれる。八鹿町内では、とが山古墳群が築かれる。上山古墳は、八木川流域で築かれた唯一の前方後円墳であり、八木川・小佐川流域一帯の盟主が葬られたと考えられる。

後期になると和田山町の加部車塚、王塚、山東町の森向山古墳、養父町の観音塚古墳が築かれる。八鹿町では珠文鏡が出土した源氏山4号墳が築かれる。さらに後期後半になると、八鹿町では箕谷古墳群や西家の上古墳群でも横穴式石室が築かれる。八木川の右岸では米里古墳群や高柳向山・下向古墳群が築かれる。単龍環頭大刀が出土した養父町の大藪古墳群や「戊辰年五月」銘の大刀が出土した八鹿町の箕谷2号墳で知られる箕谷古墳群が築かれる。

八鹿町内の古墳の分布は、古墳時代の全時期を通して八木川左岸の山塊の南東斜面に集中しており、右岸側は比較的少ない。また、小佐川流域でも分布数は少ないことから、当時の生活の中心地は八木川

の左岸であったと考えられる。

南但馬を代表する古墳時代全般にわたる大規模な集落跡は、山東町の柿坪遺跡から約120棟の竪穴住居や34棟の独立柱建物、水田跡が検出されている。中でも4面庇付き建物や屋内に棟持ち柱を持つ建物で構成されており、政治や祭祀に関わる特別な空間として利用されたと考えられる。和田山町の加都遺跡からも100棟以上の竪穴住居が検出されている。このあたりは円山川や与布土川、柴川、栗鹿川によって開析され、早くから安定した平野が広がっているため、集落が発達していた。一方、八鹿町内では八木川、小佐川流域に安定した広い面積の土地が少なかったせいか、現在のところ平野部では大規模な集落跡は確認されていない。むしろ、川岸よりも少し標高が上の現在の小山、国木の集落があるあたりが中心であった可能性が高い。

但馬における生産遺跡の須恵器の窯跡で現在確認されている最古のものは竹野町の鬼神谷1号窯で、5世紀末に操業されていた。和田山町の岡田窯跡、朝来町の松谷窯跡は6世紀後半に操業されている。豊岡市の三宅瓦窯は7世紀後半の操業である。八鹿町内では、大田和遺跡の西約600mの谷を2つ隔てた地点に所在するとが山古窯跡からは、7世紀後半代の須恵器の窯跡2基が検出されている。

八鹿町内の古代の遺跡としては、朝倉遺跡は奈良から平安時代前半にかけての溝が検出されており、出土した遺物の量から付近に集落が存在したことを伺わせる。東家ノ上遺跡からは、平安時代の独立柱建物跡と礎石建物跡、溝が検出されており、石帯と共に「菅」と墨書された須恵器碗が出土している。また、八鹿町には、古代山陰道が通過していた。推定コースは、遠坂峠より栗鹿に入りそこから北西に進路をとり、養父市場を抜け、養父町上野、広谷を通過して八鹿町朝倉に抜け、そこから八木川沿いに西に向かい関宮町を通るコースである。現在の国道9号線がこの道筋をほぼ踏襲している。八木・殿屋敷遺跡からは、8世紀頃の土器と共に石帯が出土しており、立地も眺望に優れた位置であるため、養父駅家跡に比定されている。栗鹿駅家と養父駅家の間には郡部駅家が有ったとされるが、その推定地は上野か広谷のどちらかである。この郡部駅家からは但馬国府に向けて支路が出ていたと推定されている。

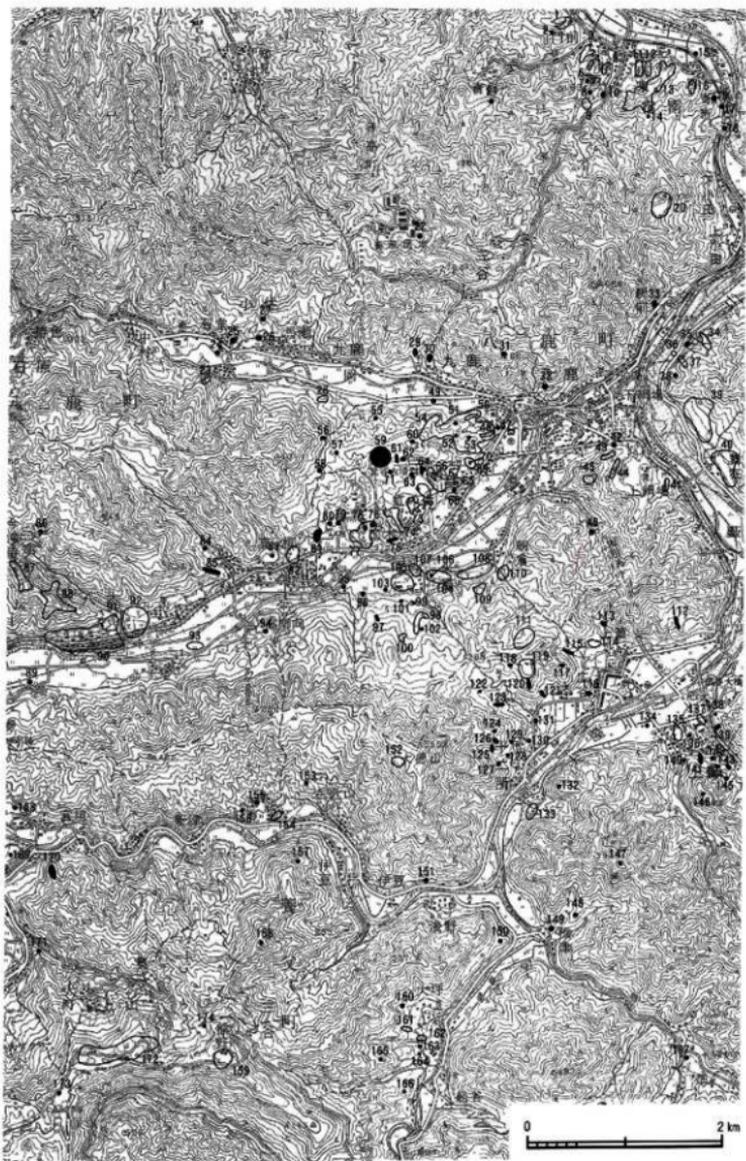
#### 参考文献

「八鹿町史」

「養父町史」

「平成13年度 年報」

「北近畿の考古学」2001.10



第7図 大田和遺跡周辺の遺跡

1	遺跡名	時代	58	八木城	中世
2	立石1～5号墳	古墳	89	若古古墳	古墳
3	在氣山古墳	古墳	90	八木城下町遺跡	中世
3	源氏山A1～4号墳・源氏山1～10号墳	古墳	91	御恩遺跡	中世
4	池田平1～3号墳	古墳	92	殿屋敷遺跡	中世
5	岸谷1～3号墳	古墳	93	下起内遺跡	古墳
5	びくに古墳・びくに中世墓群	古墳	94	上向土器散布地	古墳
6	藤山遺跡	中世	95	高柳山山1～3号墳	古墳
6	兼路経塚	古墳	96	高柳山山4号墳	古墳
7	見谷1～4号墳	古墳	97	下向1・2号墳	古墳
10	神尾散布地	平安	98	米里1～8号墳	古墳
11	高月1～7号墳	古墳	99	米里9号墳	古墳
12	高月8～11号墳	古墳	100	米里10～13号墳	古墳
13	稻浦城	中世	101	米里14号墳	古墳
14	うなば古墳	古墳	102	米里飯盛	古墳
15	町土井ノ内遺跡	中世	103	米里山階古墳	古墳
16	広ヶ谷1・2号墳	古墳	104	米里遺跡A地点	古墳
17	寄宮1号墳	古墳	105	米里遺跡B地点	古墳
18	寄宮2号墳	古墳	106	米里円形銅鐸基	古墳
19	寄宮3号墳	古墳	107	一の宮等社散布地	古墳
20	池之内遺跡	古墳	108	朝倉西台	古墳
21	青山城	中世	109	朝倉城	古墳
22	奥三谷経塚	中世	110	朝倉土器散布地	古墳
23	今井1・2号墳	平安	111	朝倉山神遺跡	古墳
24	石堂田中遺跡	平安	112	下山1～4号墳	古墳
25	小谷城跡	平安	113	須賀谷1～3号墳	古墳
25	小舞遺跡	平安	114	宮の1～7号墳	古墳
27	一ツ果遺跡	古墳	115	人枝坂1～5号墳	古墳
28	とが山北1・2号墳	古墳	116	樽ノ木ヶ坪遺跡	古墳
29	桜谷1・2号墳	古墳	117	新宮磐	古墳
30	九屋城	中世	118	新宮1号墳	古墳
31	須山城	中世	119	新宮山寺院跡(2方所)	古墳
32	大明神土器散布地	弥生	120	新宮山塚・中世墓群	古墳
33	大森1号墳	古墳	121	大谷1・2号墳	古墳
34	夕張1・2号墳、10～14号墳	古墳	122	電ヶ谷1号墳	古墳
35	夕張3号墳	古墳	123	電ヶ谷2～4号墳	古墳
36	夕張6号墳	古墳	124	寺の上1号墳	古墳
36	夕張4・5号墳、7～9号墳	古墳	125	寺の上2・3号墳	古墳
37	雀屋古墳	古墳	126	十二所1号墳	古墳
38	舞狂丸山1～15号墳	古墳	127	十二所2号墳	古墳
40	舞狂若宮1～10号墳	古墳	128	十二所3号墳	古墳
41	鎌ヶ平1・2号墳	古墳	129	十二所4号墳	古墳
42	八重焼跡	古墳	130	十二所集里	古墳
43	サイレン山1～5号墳	古墳	131	土井の内	古墳
44	八雲塚1～5号墳	古墳	132	十二所	古墳
45	朝倉向山城	中世	133	久留井遺跡	古墳
46	田路古墳	古墳	134	ユリ遺跡	古墳
47	寺坂土師器散布地	古墳	135	小山遺跡	古墳
48	寺坂1～8号墳	古墳	136	種那城(小山・上野城)	古墳
49	片山1～3号墳	古墳	137	光寺院寺	古墳
50	片山4～6号墳	古墳	138	安井1号墳	古墳
51	片山7号墳	古墳	139	安井寺	古墳
52	神田1号墳	古墳	140	馬草1～4号墳	古墳
53	神田2号墳	古墳	141	早田1～7号墳	古墳
54	神田城	中世	142	飯音塚古墳	古墳
55	大林古墳	古墳	143	上野1号墳	古墳
56	茶室古墳	古墳	144	上野2号墳	古墳
57	とが山1号墳	古墳	145	東谷古墳	古墳
58	とが山2号墳	古墳	146	上野城	古墳
59	大田和遺跡、大田和古墳	古墳	147	福津(上野)高城	古墳
60	西家ノ上山頂古墳	古墳	148	福津里城	古墳
61	西家ノ上1・2号墳	古墳	149	福津古墳	古墳
62	西家ノ上遺跡	古墳	150	舟屋城	古墳
63	箕谷1号墳	古墳	151	磯野古墳	古墳
64	箕谷2～5号墳・箕谷遺跡	古墳	152	仙遊寺跡	古墳
65	東家の上遺跡	古墳	153	左近山城	古墳
66	東家の上1～6号墳	古墳	154	玉見、下煙遺跡	古墳
67	小山1～9号墳	古墳	155	玉見城	古墳
68	小山土器散布地	古墳	156	観音山墳墓	古墳
69	一都城	中世	157	伊豆・家の上遺跡	古墳
70	一都古墳	古墳	158	伊津城	古墳
71	赤尾古墳	古墳	159	熊野遺跡	古墳
72	赤尾遺跡	古墳	160	松尾館	古墳
73	中山1～15号墳・中山22・23号墳	古墳	161	小谷1～4号墳	古墳
74	中山16～21号墳・中山24号墳	古墳	162	一本木遺跡	古墳
75	上山1～3号墳	古墳	163	山田遺跡	古墳
76	上山古墳	古墳	164	船谷(西山)遺跡	古墳
77	とが山1～18号墳	古墳	165	船谷(向山)遺跡	古墳
78	とが山寺院跡	中世	166	比丘尼城	古墳
79	とが山土器散布地	平安	167	畑・坪ノ内遺跡	古墳
80	高柳野原遺跡	古墳	168	荒神谷遺跡	古墳
81	高柳敷田遺跡	古墳	169	三方城	古墳
82	高柳石器散布地	古墳	170	福見ノ山古墳	古墳
83	得塚塚1・2号墳	古墳	171	福見ノ山古墳	古墳
84	駒成寺田跡	中世	172	上山高原遺跡第1～8地点	古墳
85	万ヶ谷1～3号墳	古墳	173	上山高原遺跡第9地点	古墳
86	寺嶋寺中世墓群	中世	174	上山高野古墳	古墳
87	八木土城	中世			



第8図 大田和遺跡周辺の古墳

番号	遺跡名	形態	規模	番号	遺跡名	形態	規模	番号	遺跡名	形態	規模
0008	片山1号墳			0104	中山6号墳			0119	小山1号墳	円墳	直径13m
0009	片山2号墳			0095	中山7号墳			0120	小山2号墳	円墳	直径16m
0010	片山3号墳			0098	中山8号墳			0121	小山3号墳	円墳	直径25m
0011	片山4号墳			0097	中山9号墳			0122	小山4号墳	円墳	
0012	片山5号墳			0098	中山10号墳			0123	小山5号墳		
0013	片山6号墳			0099	中山11号墳			0124	小山6号墳		
0014	片山7号墳			0100	中山12号墳			0125	小山7号墳		
0015	大林古墳			0101	中山13号墳			0126	小山8号墳		
0020	寺坂1号墳			0102	中山14号墳			0127	小山9号墳		
0021	寺坂2号墳			0103	中山15号墳	円墳	直径10m	0128	塚原1号墳	円墳	直径12m
0022	寺坂3号墳			0104	中山16号墳			0129	塚原2号墳	円墳	直径12m
0023	寺坂4号墳			0105	中山17号墳			0130	塚原2号墳	円墳	直径25m
0024	寺坂5号墳			0106	中山18号墳			0135	大田和古墳	円墳	直径25m
0025	寺坂6号墳			0107	中山19号墳			0136	塚原1号墳	円墳	直径11m
0026	寺坂7号墳			0108	中山20号墳			0136	塚原2号墳	円墳	直径12m
0027	寺坂8号墳			0109	中山21号墳			0137	塚原3号墳	円墳	直径13m
0031	一帯古墳			0110	中山22号墳			0138	塚原4号墳	円墳	直径7m
0032	神田1号墳			0111	中山23号墳	円墳	直径7m	0139	塚原5号墳	円墳	直径6m
0033	神田2号墳			0112	中山24号墳			0144	塚原の上号墳	円墳	直径15m
0089	中山1号墳	円墳	直径14m	0113	上山古墳	前方後円墳	全長42m	0145	塚原の上号墳	円墳	直径12m
0090	中山2号墳	円墳	直径13m	0114	上山1号墳			0146	塚原の上号墳	円墳	直径6m
0091	中山3号墳	円墳	直径19m	0115	上山2号墳			0147	塚原の上号墳	円墳	直径5m
0092	中山4号墳			0116	上山3号墳			0148	塚原の上号墳	円墳	直径8m

## 第3章 大田和遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

大田和遺跡は、円山川支流の八木川北岸に広がる山塊の中腹に位置する。遺跡は、北から南側の平野部に張り出す尾根の東側斜面に立地し、八木川により開析された平野が展望できる。

### 第2節 A-1地区の遺構

A-1地区で確認できた遺構は、竪穴住居6棟、掘立柱建物2棟、土坑2基、盛土状遺構1カ所を検出した。

#### 竪穴住居

##### SH01 (図版5、写真図版7)

検出状況 旧道により大半が削平されていた。周壁溝と主柱穴が1基残るのみである。旧道の法面に住居の断面が見える状態であった。

形状・規模 隅丸の方形で、北側隅、2.8mを検出した。

屋内施設 周壁溝、柱穴を検出した。

周壁溝 3×0.6m、幅0.2mを測る。

主柱穴 1基を検出した。P1の直径は20cm、深さ5cmを測る。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

##### SH03 (図版5、写真図版8)

検出状況 西側の残りは比較的良好だが、東側は上面が削平されていた。

形状・規模 隅丸の方形で一辺3.6×3.6m、検出面よりの深さは、最深部で0.5mを測る。

屋内施設 周壁溝、柱穴を検出した。

周壁溝 南側から北側にかけて検出した。幅は10~15cm、深さは8cmを測る。

主柱穴 4基を検出した。P2は直径20cm、深さ6cm、P3は直径23cm、深さ17cm、P4は直径25cm、深さ4cm、P5は直径20cm、深さ3cm、P6は直径30cm、深さ3cmを測る。

その他 床面の中央部で焼土が検出された。長径50cm、短径30cmの不定型な楕円形を呈しており、P4により一部が切られている。

出土遺物 床面より、須恵器坏蓋(1)、高坏(7、10、11、12、13、15)が出土した。また、北西の主柱穴の横からは石皿(S2)、砥石(S3)が検出された。土器、石器は住居の西側に集中していた。埋土中からは須恵器坏H蓋(2)、坏H(3)、台付埴(4)、土師器坏(6)、高坏(8、9、14)、甗の把手、壺(17)、甕(18、19、20、21、22、23、24、25、26、27)、石皿(S1)が出土した。

##### SH08 (図版6、写真図版10)

検出状況 北側は残りがよいが、南側は削平されていた。

形状・規模 西側で3m、北側6.8m、東側1.2m程が残存する。

屋内施設 周壁溝、柱穴を検出した。

周壁溝 西側から東側の一部で検出した。幅は15～30cm、深さ10cmを測る。

柱穴 2基を検出した。P10は、直径30cm、深さ5cm、P11は長径50cm、短径40cm、深さ3cmを測る。

その他 床面の東寄りから2カ所、焼土が検出された。長径80cm、短径38cmの不定型な楕円形と直径40cmの円形を呈する。

出土遺物 埋土中より、須恵器杯蓋(29)、把手付埴(30)、土師器高坏(31、32、33)、小型短頸甕(34)が出土した。

#### SH08 下層遺構(図版6、写真図版10)

検出状況 周壁溝状の溝を検出した。

形状・規模 西側で3m、北側6.8m、東側1.2m程が残存する。

その他 床面の中央で焼土を検出した。直径30cmを測る。

#### SH09(図版7、写真図版11)

検出状況 北西隅の一部を検出した。ほとんど削平された状態である。

形状・規模 一辺3m程であると推定される。

屋内施設 周壁溝を検出した。

周壁溝 西側から北側にかけて検出した。幅25～40cm、深さ10cmを測る。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

#### SH10(図版7、写真図版12)

検出状況 はほぼ全体を検出したが、南側の壁は削平されて残っていない。

形状・規模 一辺5.2mの隅丸方形と考えられる。

屋内施設 周壁溝、柱穴、土坑を検出した。

周壁溝 検出した範囲全体にわたって検出した。幅25cm、深さ18cmを測る。

柱穴 4基検出した。P18とP19、P20とP21が対になるかと考えられる。P18は直径38cm、深さ4cm、P19は長径40cm、短径35cm、深さ7cm、P20は直径40cm、深さ5cm、P21は長径35cm、短径30cm、深さ5cmを測る。

土坑 西壁中央付近の周壁溝を切り込んでいる。長径80cm、短径70cmの楕円形を呈する。

出土遺物 周壁溝内より土師器坏(37)、甕(40)が出土した。埋土中からは、須恵器坏H蓋(35)、高坏(36)、土師器坏(38)、ミニチュア土器(39)、甕(41、42、43)が出土した。

#### SH11(図版8、写真図版13)

検出状況 住居跡の東半分は残存していなかった。

形状・規模 一辺4.5mの隅丸方形と考えられる。

屋内施設 周壁溝、柱穴を検出した。

周壁溝 検出した面の全面にわたって検出された。幅15～40cm、深さ15cmを測る。

柱穴 4基を検出した。P22は直径35cm、深さ5cm、P23は直径28cm、深さ3cm、P24は直径60cm、柱当たりは直径35cm、P25は長径40cm、短径30cmを測る。

その他 床面の中央で2カ所、焼土が検出された。長径70cm、短径35cmの楕円形と直径25cmの円形を呈する。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

## 掘立柱建物

### SB01 (図版9、写真図版14)

検出状況 調査区南東部より検出した。

形状・規模 N-5-Wに主軸をとり、梁行2間以上、桁行3間以上からなる掘立柱建物である。柱間の距離は梁行、桁行ともに1.6~2.2mと、ややばらつきがある。柱穴の大きさは約15~40cmで、P29がもっとも大きく長径40cm、短径35cm、P32はもっとも小さく直径15cmを測る。建物のすぐ西側には、雨落ち溝状の溝が検出された。溝の形状は、長さ3.2m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

### SB02 (図版9、写真図版14)

検出状況 SB01の東側より検出した。

形状・規模 N-1-Wに主軸をとると推定され、梁行2間以上、桁行2間以上からなる掘立柱建物である。柱間の距離は梁行、桁行ともに1.6~2.2mとややばらつきがある。柱穴の大きさは、約20~40cmで、P40がもっとも大きく直径40cm、P42がもっとも小さく直径20cmを測る。P37とP38は幅13cm、深さ5cmの溝でつながっている。

出土遺物 遺物は出土していない。

### 盛土遺構 (図版10、11、写真図版15)

検出状況 調査区南西の隅より検出した。遺構の大半は、調査区外に有る。

形状・規模 長さ8m、最大幅2.4mを測り、地山の上に最大で1.2m盛土をしている。

出土遺物 盛土の中から須恵器坏B蓋(58)、壺蓋(59)、坏A(60)、坏B(61)、土師器壺(62、63)、埴(64)、皿(65、66、67)、碗(68、69)、磁石(S7)が出土した。下層の土坑状の落ち込みより坏H(44)、坏B(45、46)、壺(47)が出土した。

### 集石遺構 (図版12、写真図版14)

検出状況 SH03の西、1.5mの地点で検出した。

形状・規模 直径0.7mのほぼ円形に5~25cm大の礫がまぎらって検出された。

出土遺物 遺物は出土していない。

### 焼土坑 (図版12、写真図版14)

検出状況 調査区北西隅から検出した。

形状・規模 平面形は直径0.7mの円形で深さは0.3mを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

## 第3節 A-2地区の遺構

A-2地区は、大田和古墳の東側にあたる。確認調査(950397)のA-3トレンチを10×12mに拡張して調査区を設定した。

谷状になった地形は検出したが、遺構は確認できなかった。土師器片など若干の遺物が出土したが、図化はできなかった。



写真3 A-2地区調査風景

## 第4節 B地区の遺構

B地区は、A-1地区の南側に伸びる尾根の東側斜面に立地しており、テラス状遺構2カ所、ピット数基を検出した。遺物は土師器片が出土したが図化できなかった。包含層中から銭が1点出土している。

上部テラス状遺構（図版15、写真図版18）

標高155mのところに位置するテラス状の遺構である。柱穴などの遺構は検出されなかった。

下部テラス状遺構（図版15、写真図版19）

標高150mのところに位置するテラス状の遺構である。土師器片が出土している。

## 第5節 遺物

### 全体の概要

出土した遺物の時期は、弥生時代、古墳時代、奈良時代、中世に分けられる。全体の出土量の中でも古墳時代の遺物がその大半を占め、奈良時代の遺物が後に次ぐ。土器は全体的に土師器の割合が多い。住居跡から出土したものは、土師器の高坏、甕類が大半を占め、須恵器の坏、高坏などの割合は少なかった。また、石器も多く出土している。住居跡からは玉類も出土している。

### 1. 土器

#### 弥生土器

##### 壺（54、55）

いずれもIV様式の壺の底部と考えられる。

#### 須恵器

##### 坏H壺（1、2、29、35、56、100、106）

1は、天井部が丸みを帯びた壺である。体部は直線的で外側に広がる。田辺昭三による編年のTK23型式に比定される。2は、天井部が扁平で、体部はやや外反する。29は、天井部が丸みを帯びるがやや扁平で、体部は口縁部にかけて丸みを帯びる。田辺編年のTK208形式に比定される。35は、天井部が扁平で断面形は箱形に近い。田辺編年のTK23型式に比定される。56は、天井部がやや丸みを帯びる。体部と天井部の境があまり明瞭でない。100は、天井部が丸みを持つ。106は、小振りで天井部がやや扁平で、天井部と体部との境が不明瞭である。体部は口縁部にかけて丸みを持つ。

##### 坏H（3、44、70、71）

3は、立ち上がりが内傾しており、底部は丸みを帯びる。44は、やや扁平で受け部は短く丸みがある。70は、小振りで、底部が丸みを帯びている。田辺編年のTK23型式に比定される。71は、扁平である。

##### 台付埴（4）

口縁部に2条の稜線が走り、その下には9条の波状文が巡る。底部はヘラ削りが施されている。

##### 把手付埴（30）

口縁部は外反しその下に断面三角形の稜線が2条走る。その下には7条の波状文が巡る。底部はヘラ削りが施されている。

#### 高坏 (36)

一段の透かし穴を持つ。脚部外面にはカキ目が施されている。

#### 坏A (60, 84)

60, 84は、底部と体部の境が明瞭でなく、緩やかに立ち上がる。

#### 坏B蓋 (58, 85)

58は、全体的に扁平で天井部に扁平なつまみがつく。断面三角形のかえりがつく。85は、天井部は丸みを持つ。つまみの形状は扁平である。

#### 坏B (45, 46, 50, 61, 86)

45は、体部が丸みを持ちながら立ち上がる。高台は外側に踏ん張るタイプである。46は、体部と底部の境が明瞭でなく、体部は丸みを持って斜めに立ち上がる。50は、体部が直線的に斜めに立ち上がるタイプで、体部内面に3条の凹線が走る。61は、底部のみが残存していた。高台は外側に踏ん張るタイプである。86は、低い高台を持つタイプである。

#### 坏E (87)

体部内外面を横ナデしており、底部はヘラ切りである。

#### 蓋A蓋 (59)

平坦な天井部と直角に折れ曲がる口縁部からなる。つまみは遺存しなかった。

#### 蓋 (88)

体部の一部のみが出土した。形状は不明である。

#### 埴 (91)

底部のみが出土した。外面には回転糸切り痕が残る。

### 土師器

#### 坏 (5, 6, 37, 38, 89)

5は、口縁部と体部の一部が残存していた。体部内面には横方向のハケ目が施されている。6は、丸底の坏である。著しい摩滅のため調整はわかりにくい。外面は削りの後ナデている。口縁部外面を強くナデている。37は、丸底の坏である。体部外面は斜め方向の削りが施され、体部内面は縦方向のミガキが施された後、口縁部内面を強く横方向にナデが施されている。38は丸底の坏であるが、体部内面にハケ目状の状痕が4～5条走っている。89は、体部が直線的に斜めに立ち上がるタイプの坏である。体部の内外面ともにナデが施されて仕上げられている。体部外面には指頭痕が残る。

#### 埴 (68, 69)

68, 69ともに口縁部が外反している。外面の摩耗が激しく、調整は不明であるが、内面にミガキが施されている。

#### 高坏 (7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 31, 32, 33, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 105)

7, 8, 9, 13, 14は坏部の丸底のタイプである。7は坏部のみが残っていた。8は坏部の一部と脚部が残っていた。脚部の外面は縦方向のナデが施され、内面は横方向のナデが施されている。9は坏部のみが、10, 11, 12は脚部のみが残存していた。13は完存、14は坏部の一部と脚部が完存していた。いずれも摩耗が激しく、調整は不明瞭であるが、坏部の内外面は横方向のナデが、脚部は外面が縦方向のナデ、内面は横方向のナデが施されている。15は坏部の底部と体部の境に稜を持つタイプである。全体

に摩耗が激しく調整は不明瞭である。脚部内面に指頭痕が残る。31、32は坏部が丸い底のタイプである。33は遺存状態は良くないが、坏部の体部と底部の境に稜を持つタイプと考えられる。72は坏部が丸い底のタイプである。73は坏部の体部と底部の境に稜を持つタイプである。74、75、76、77は脚部のみで形式は不明である。105は坏部が丸い底のタイプである。坏部のみが残存している。坏部の内外面に斜め方向のハケ目を施している。

#### ミニチュア土器 (39、78)

いずれも手づくねで作製されている。

#### 壺 (17)

体部のみが出土している。全体の形状は不明である。体部内外面とも横方向のナデが施されている。

#### 小型短頸壺 (34)

頸部から体部外面は横方向のナデが施されている。内面は斜め方向のナデが施されている。

甕 (18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、40、41、42、43、47、49、51、52、57、62、63、79、80、81、82、83、93、94、95、98、99、101、102、103、104)

18、24、28、42は口縁端部が平坦で外側に膨らむタイプである。19は、口縁部と体部の境が強くナデられて口縁部の外側に稜を持つ。端部は内傾する。体部外側は斜め方向のハケ目を施し、内面は横方向の削りを施す。20は小型の甕で、直線的に外反する口縁を持つ。体部外面は斜め方向のハケ目を内面は横方向の削りを施す。21は小型の甕の底部で、外面はハケ目調整、内面は摩滅のため不明である。22は甕の口縁部で口縁部内外面は横ナデ、体部外面は縦方向のハケ目が施されている。23は口縁が直線的に外反し、端部は直角に取られている。26は肥厚した口縁を持つ、端部は凹線が入っている。25は丸い体部を持つ。外面は斜め方向のハケ目が、内面は横方向の削りが施されている。口縁部内外面は縦方向のハケ目が施されている。27は甕の口縁部で、口縁部の内外面は横ナデ、体部外面は斜め方向ハケ目、内面は横方向の削りが施されている。40は直線的でやや立ち上がり気味の口縁部を持つ。調整は摩耗が激しく不明である。41は曲線的に外反する口縁を持つ。43、104は肥厚した口縁部で水平な端部を持つ。体部は一部しかないが、大型の甕であると推定される。47は口縁端部が水平で外側に膨らむ。全体の調整は摩耗が激しく不明である。49は口縁端部が外側に開き、端部が外側に膨らむ。51、52は直線的に外反する口縁部を持ち、端部が内傾している。口縁部と体部の境の外面は強くナデられている。57は直線的に外反する口縁部を持ち、端部は水平である。62は口縁部の肥厚した甕で、口縁部と体部の境目の外面に指頭圧痕が残る。63は大型の甕で口縁端部は丸みを持ち、内外面とも横ナデ、体部は外面がハケ目、内面が横方向削り調整を施す。79は直線的に外反する口縁部を持ち、端部は内傾している。調整は体部内面に横方向の削りを施すほかは摩耗が激しく不明である。80はやや短い直線的に外反する口縁部を持つ。端部は外傾している。体部外面は横方向のハケ目が、内面は横方向の削りが施されている。81は口縁部のみである。摩滅が激しく調整は不明である。82は口縁部の端部外面と頸部が強くナデられている。83、98は口縁部が直線的に上方へ立ち上がる。口縁部外面は縦方向のハケ目が、内面は斜め目方向のハケ目が施されている。体部外面は縦方向のハケ目が、内面は主に横方向の削りが施されている。93、99はやや厚めの曲線的に外反する口縁部を持つ。口縁部外面は指頭痕が残る、内面は横方向のハケ目が施されている。体部は縦方向のハケ目が、内部は横方向の削りが施されている。94は内側に曲線的に内傾する口縁部を持つ。口縁部の調整は不明であるが、体部外面は主に斜め方向のハケ目が、内面は下半を縦方向に削ったのち、上半に横方向の削りを施している。器表面に煤の付着が著しい。95は口縁部がやや内曲

気味に立ち上がり調整は横方向にナデられている。体部外面は斜め方向のハケ目が、内面は横方向の削りが施されている。体部内面の底には指痕が残る。器表面に煤の付着が著しい。101は小型の甕で、口縁があまりくびれずに上方へ立ち上がる。体部外面は斜め方向のハケ目が施され、内面は主に横方向の削りが施される。器表面に煤の付着が著しい。102は口縁部が直線的に外反し端部が内傾する。体部外面は縦方向のハケ目が、内面は横方向の削りが施される。103は口縁部が直線的で端部が水平である。体部外面は斜め方向のハケ目が、内面は横方向の削りが施されている。

#### 甕 (16)

把手のみが出土している。

#### 坏A (97)

体部が直線的に立ち上がる。調整は体部内外面が横ナデ、底部外面にヘラ切り痕が残る。

#### 埴D (92)

底部のみが出土した。外面にはヘラ切り痕が残る。

#### 皿B (96)

底部のみが出土した。

#### 皿C (65、66、67、90)

いずれも体部内外面は回転ナデが施され、底部は糸切り痕が残る。

#### 埴A (48、53、64)

大きさは2つに分けられる。調整はいずれも外面が縦方向のハケ目が施され、体部の内面は横方向のハケ目が、口縁部内部は斜め方向のハケ目が施され、口縁部と体部の内面の境に稜を持つ。これらの遺物の時期は9～10世紀前後と考えられる。

## 瓦器

#### 埴 (68、69)

いずれも体部外面は横ナデが施され、内面は回転ナデの後ミガキが施されている。

## 2. 石製品

#### 石皿 (S1、S2)

S1は一辺が直線的な楕円形の平面を呈する。片側に使用痕が残る。片側の面には金属などの硬質の物で削ったような加工痕が残る。石器全体に赤みを帯び被熱していると見られる。S2は、丸みを帯びた楕円形の平面形を呈する。両面とも使用されすり減っているが、片面がよくすり減り、中央部がやや窪んでいる。

#### 砥石 (S3、S5、S7)

S3は、台形の平面形を呈する。大きな石材を分割して使用している。断面は風化して端部が丸みを帯びている。もっとも長い辺の角に鉄器等で削った様な削痕が4カ所付いている。S5は細長い楕円形の礫を利用した砥石である。長径方向の面を作業面としている。S7は、やや屈曲している楕円形の平面形を呈する。

#### 敲石 (S4、S7)

S4は片方の端部を敲打面として使用している。表面には金属器のような硬質の鋭利なもので割られた様な痕跡がある。全体に赤みを帯びており被熱していると考えられる。S7は緻密な砂岩系の石で作

られている。片方の面と側面が砥石として使用されている。

(S 6)

粘板岩をうち欠いて作られたもので、何らかの製品に加工する途中の物と考えられる。

### 3. 玉類

#### 白玉 (J 1～J 4、J 7～J 19)

緑泥片岩製の白玉である。いずれも一方向からの穿孔である。J 1、J 2、J 4、J 10は円筒形の形状であるが、J 3、J 4、J 14は厚みが薄くて端部が丸みを帯びている。J12、J13、J15、J16、J17、J18、J19は側面にそろばん玉状の稜を持つ。

#### 勾玉 (J 5)

小型の勾玉で一方向からの穿孔である。

#### 管玉 (J 6)

石材は橄欖岩起源の片岩と考えられる。両側から穿孔されている。

### 4. 金属製品

金属製品は、鐵、釘、錢がそれぞれ1点ずつ出土した。

#### 鐵 (M 1)

平規式、鐵身部の形状は長三角形で長頸鐵である。頸部と莖部との間の境に段がある。材質は鉄である。

#### 釘 (M 2)

頭部をつぶして一方向に折り曲げる形状である。材質は鉄である。

#### 錢 (M 3)

寛水通宝である。材質は銅である。

## 第4章 自然科学分析

### 大田和遺跡出土緑泥石片岩様玉類の産地分析

薫 科 哲 男

(京都大学原子炉実験所)

#### はじめに

遺跡から出土する勾玉、玉、垂玉、管玉などの岩石名の推定は、一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のように思われているのが実態である。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、硬玉、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、緑色凝灰岩（グリーンタフ）などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどで、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、例えば緑色凝灰岩製管玉と岩石名が決まれば、軟らかく加工が容易だと想像できても、実際の硬度、打撃亀裂性などを測定した上で考察しなければ、古代の管玉製作技術に関する資料として無意味である。地学の専門家でも、肉眼観察では、岩石名を間違えることは避けられないと指摘している。岩石名を決定することよりも、どこの産地の原石が使用されているか、産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となり、また産地分析の過程で岩石名決定に関係する情報も得られる。産地分析の結果から原材料産地が特定出来なくても得られた分析値を他の遺跡出土の玉類の分析値と相互比較することにより同じ組成の材料から作られた玉類の使用圏の情報も得られ、将来、原材料産地の調査が進めばこれら玉類の原材料産地は明らかに。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）とか碧玉の原産地のうち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法<sup>1)</sup>および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法<sup>2,3)</sup>が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は蛍光X線分析法と電子スピニング共鳴法を併用し産地分析より正確に行った例<sup>4)</sup>が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原材料産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭り、御守り、占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになる玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭り、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原材料産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

兵庫県養父郡八鹿町小山他に位置する大田和遺跡の5世紀後半の集落址から出土した緑泥石片岩様製白玉2個と管玉1個の合計3個の原石の分析結果が得られたので報告する。

## 非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけないければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。石器の原材産地分析で成功している<sup>4)</sup>非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比を取り、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。さらに玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、玉類に含有されている常磁性種を分析し、その信号から滑石、緑泥石片岩、碧玉など産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した<sup>5)</sup>。

## 蛍光X線分析による分類

分析した緑泥石片岩様製玉類の出土地区、遺構、層位を第3表に示す。分析した玉類は、超音波洗浄器で水洗を行うだけの完全な非破壊分析で行い、玉類は肉眼で汚染の少ない面を選んで直径約2 cm $\phi$ 以内の部分で分析した。滑石・緑泥石片岩様製玉類のエネルギー分散型蛍光X線分析の蛍光X線スペクトルを第9図-1~3に示す。分析された元素の中で比較的大きなピークはマグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、珪素(Si)、チタン(Ti)、クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ジルコニウム(Zr)、小さなピークのカルシウム(Ca)は共通の分析ピークで、分析番号89159番には亜鉛(Zn)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)などの元素も観測された。これら元素は遺物によって含有量が異なり、元素含有量の分析値には、分析遺物の形状の違いによる影響が含まれているために、遺物相互の組成比較は、元素比を取って形の影響を取り除き元素比組成(第4表)で行った。滑石、緑泥石片岩の原石産地の調査は殆ど進んでいないが、似た岩石を使用している大阪府泉南市亀川遺跡、岐阜県大垣市昼飯大塚遺跡、鳥取県大山町妻木晩田遺跡出土玉類の元素比組成と分析した白玉、管玉の元素比組成でクラスター分析を行った。亀川遺跡から代表的な遺物30個(分析番号78???番)を、昼飯大塚遺跡から30個(分析番号76???-77???番)、妻木晩田遺跡から19個(分析番号65???番)を選び、大田和遺跡出土玉類の分析番号89157~89159番(↑)とクラスター分析を行った結果を第10図に示した。クラスター分析では組成の似た遺物同士が低い階段でクラスター(グループ)を作る。似た組成グループは同じ産地の原石の可能性を推測して、任意にグループを作るために、何処の高さの階段以上はグループを作らないとして、切り捨てるかの判断は任意で、通常階段が急に高くなる高さで区切るのが一般的である。今回は第10図中点線の下方で、できたクラスターを一つのグループとした。分析番号89157、89158番の白玉は、昼飯大塚遺跡と妻木晩田遺跡の白玉が一つのグループを作っていて、同じ産地、同じ起源の原石の可能性を示している。しかし、分析番号89159番の管玉は何処の遺物ともグループを作らず、独特の組成を示している。次にERS分析の結果も、昼飯大塚遺跡と妻木晩田遺跡の遺物と一致すれば、同じ産地の原石の可能性が高くなる。

## ESR分析による分類

ESR分析は滑石、緑泥石片岩などの鉱物結晶および共生鉱物に含有されているイオンとか、岩石が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号違いから産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ESRの測定は、完全な非破壊分析で、直径が1mm以下の玉なら分析は可能で、信号が強度が大きい場合は、胡麻粒大の試料で分析ができる場合がある。今回の分析した白玉、管玉のESRの結果を第11図に示した。全て基本的には6本から構成されその間隔はESRのg値決定用の標準試料Mn<sup>2+</sup>に一致していることから、滑石、緑泥石片岩の中のMgを置換したMnに関係した信号と推測した。分析番号89157、89158番の白玉とグループを作った昼飯大塚遺跡と妻木晩田遺跡の白玉も同じ6本の信号であることは明らかになっている。分析した管玉も6本のESR信号で、橄欖岩起源の片岩と推測されるが、蛍光X線分析では、一致する遺物はなく、その産地は不明とした。分析した白玉の産地も不明であるが、蛍光X線分析とESR分析の両結果が、また比重も、昼飯大塚遺跡と妻木晩田遺跡の白玉と一致したことで、これら遺跡の間で同じ玉造から入手した白玉である可能性、同じ産地からの原石を使用していたなど相互に関係があったと推測しても、分析結果と矛盾しない。

### 参考文献

- 1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。  
長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 薬科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1-18
- 3) 薬科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。  
福原考古学研究所紀要『考古学論叢』14:95-109
- 4) 薬科哲男・東村武信(1983)、石器原材料の産地分析。考古学と自然科学,16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina(1992)、Allocation of Jasper Archeological  
Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological  
Science 19:357-373

第3表 分析玉類一覧

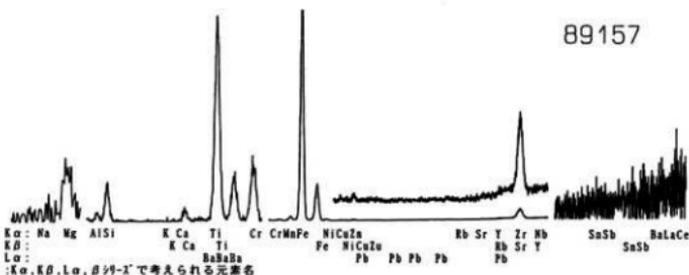
分析番号	出土地区	遺 構		層 位	器 種	備 考
89157	IV-B	SH-1 0	N区	床面上	白 玉	J 8
89158	IV-A	SH-0 3	南北トレンチ		白 玉	J 4
89159	V-B	SH-0 8	N区	床面上	管 玉	J 6

第4表-1 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類の元素分析値の比量と比重

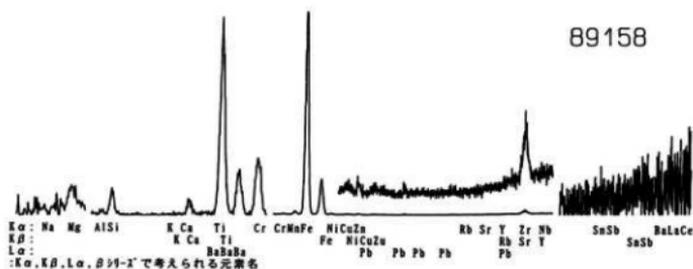
分析番号	元 素 比										
	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ca/Ti	Ca/Fe	Cr/Fe	Cr/Mn	Mn/Ti	Ti/Fe	
89157	4.106	0.130	0.000	0.385	0.049	0.001	0.004	0.214	1.256	0.015	
89158	9.798	0.092	0.000	0.722	0.066	0.001	0.004	0.279	1.113	0.014	
89159	5.348	0.212	0.033	0.243	0.046	0.000	0.001	0.041	2.085	0.008	

第4表-2 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類の元素分析値の比量と比重

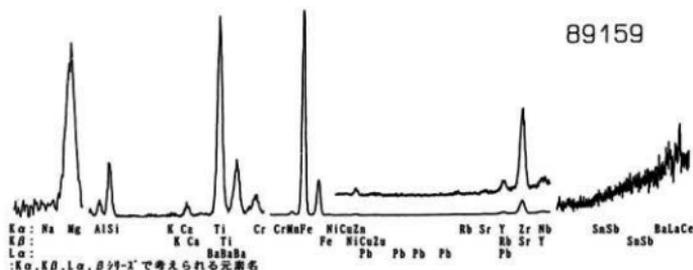
分析番号	元 素 比						遺物重量 グラム	比 重
	Mn/Fe	Ni/Fe	Y/Fe	Zr/Fe	Y/Zr	Ba/Zr		
89157	0.019	0.006	0.000	0.071	0.000	0.000	0.06602	2.652
89158	0.015	0.005	0.000	0.024	0.000	0.000	0.05711	2.739
89159	0.017	0.002	0.011	0.096	0.117	0.000	0.55759	2.751



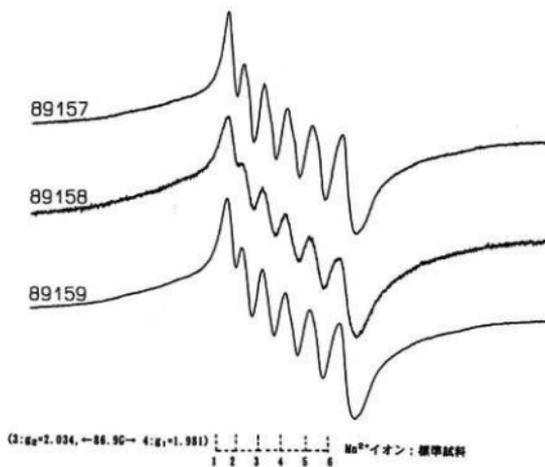
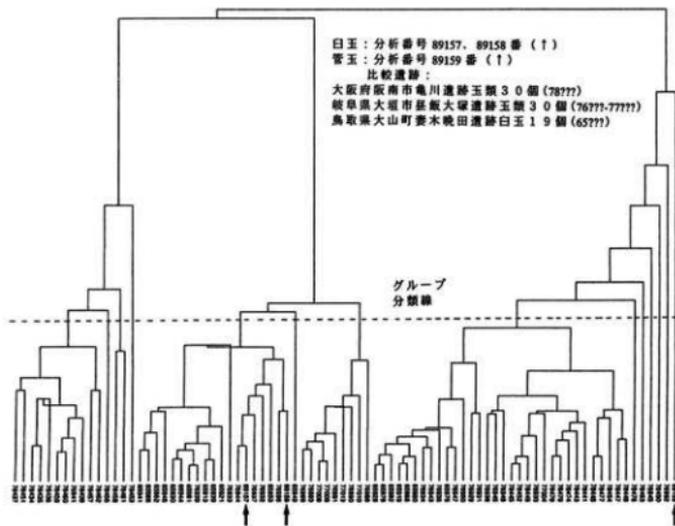
第9図-1 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製小白玉1013(89157)の蛍光X線スペクトル



第9図-2 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製小白玉1011(89158)の蛍光X線スペクトル



第9図-3 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製碧玉1015(89159)の蛍光X線スペクトル



第11図 大田和遺跡出土緑泥石片岩様製玉類のESRスペクトル

## 第5章 まとめ

### 第1節 遺構について

#### 大田和遺跡

##### A-1地区

###### 竪穴住居について

今回の調査で検出した竪穴住居跡は7棟、住居跡と考えられる遺構1カ所を確認できた。そのうち、遺物を伴う住居が3棟である。住居の床面積の大きさは大きい方からSH08（上層）が約36㎡（推定）、SH10が約25㎡（推定）、SH03が約20㎡（推定）である。

###### 掘立柱建物について

今回の調査では、2棟の掘立柱建物を検出した。建物の時期については、遺物が伴わなかったため、不明である。この2棟の建物の特徴としては、建物がほぼ真北に沿って平行して建てられていることが挙げられる。同時期に建てていたかは判断できなかった。

###### 盛土状遺構について

調査区の北西隅で検出された盛土状遺構は、その盛土内に鎌倉時代の土器を含んでいたことから、鎌倉時代以降に盛られたものと判断される。用途については、現段階では判断できない。

##### B地区

テラス状の地形が2カ所確認できた。テラス状遺構の中にピットが数穴確認できたが、建物の復元にはいたらなかった。B地区が立地する南北へと延びる尾根は、傾斜が急で有るため、住居を建てるのは向いていなかったと考えられる。大田和遺跡の南限はB地区とA-1地区の間の道路あたりと推定される。

#### 大田和古墳

トレンチによる確認調査を行った結果、大田和古墳は、直径約30mで墳丘の周囲に列石を巡らす円墳であることがわかった。主体部は、1基確認できた。主体部は竪穴式石室と考えられる。周溝より出土した土器より、5世紀代の年代観が与えられる。

大田和古墳の周囲の古墳には、谷を挟んだ東側の尾根の西側斜面には、西家ノ上古墳が位置している。さらにその南東には箕谷古墳群、東家ノ上古墳群、小山古墳群と続いている。東家ノ上古墳群、小山古墳群は古墳時代前期から後期初頭までに築かれている初期群集墳である。また、東家ノ上3号墳、箕谷古墳群、西家ノ上古墳群は後期の群集墳である。大田和古墳はそれらの古墳群のもっとも奥に位置する。

### 第2節 遺物について

#### 大田和遺跡

##### 竪穴住居出土の土器について

SH03・SH08・SH10においてまとめて遺物が出土している。

SH03では、土師器甕24・25が出土している。両個体は布留式土器の系譜上にあると認識できる。南但馬地域における古式土師器の編年については、提示できないが、北但馬地域の出石町入佐川遺跡出土土器群に比べ、口縁端部・体部の形状から、後出すと考えられる。

須恵器壺杯1～3については、1・2の天井部が丸みを帯びる点、天井部のヘラ削りが全体に及んでいない点から、田辺編年TK23からTK47に並行する時期が推測される。但し、3については、口縁端部の造りが甘く、TK23よりも新しい要素と捉えることも可能であろう。

全体的にはSH03の遺物は5世紀末を前後する時期が考えられよう。

SH08では、須恵器杯蓋29は天井部が平坦である点、天井部のヘラ削りが全体に及んでいる点、口縁部径が後縁部径を凌ぐ点など田辺編年TK208に並行する要素をもつ。

SH08に関連する遺物としては、土師器甕94・95がP9より出土している。P9はSH08の床面から検出された遺構であり、同時期もしくは先行する。小型の合わせ口甕棺の可能性が残る遺構である。

甕94・95は口縁端部の形状からみて甕24・25に先行する個体である。

以上の点から、SH08の遺物は総じて、SH03の遺物に先行する時期と捉えることができよう。

SH10では、田辺編年TK208に並行する要素をもつ須恵器杯蓋35の他短脚の四方透かしを持つ高杯36が出土しており、SH08の遺物と同様古い様相を示している。SH03の遺物に先行する時期と捉えられよう。

#### 竪穴住居出土の玉類について

白玉については、薫科哲男氏による産地分析で昼飯大塚遺跡（岐阜県）や妻木晩田遺跡（鳥取県）で出土した白玉と同じ産地の原石を用いて作られた可能性が高いことが指摘されている。ただし、今回は限られた数の分析しか行えなかったため、結論を出すのは別の機会にしたい。

#### 盛土状遺構の土器について

盛土内からは奈良時代から鎌倉時代にかけての土器が出土している。土師器壺64はいわゆるヘルメット形のものである。日高町深田遺跡・上石遺跡の例から推して、9世紀代の時期が考えられる。土師器皿65・66・67は朝来町薬師前遺跡の土師器皿Aに分類されるものに類似しており、12世紀後半から13世紀に入る時期と考えられる。瓦器壇68・69についても大きく時期をたがえるものではなからう。

盛土状遺構の時期は、遺物中最も新しい土師器皿が示す12世紀後半から13世紀に近い時期に構築された可能性が考えられる。中でも土師器皿67は石列裏より完形に近い状態で出土しており、構築時に前後して使用され混入した可能性を示唆するものである。

## 大田和古墳

### 大田和古墳の土器について

周清部より須恵器杯蓋106が出土している。天井部が丸みを帯びる点、立ち上がり端部が内傾し段を持つ点、天井部のヘラ削りが全体に及んでいない点から、田辺編年TK47に並行する時期が推測される。

第5表 大田和遺跡土器観察表

種別	器種	地区	出土遺構	層位	口径(㎜)	高さ(㎜)	重量(㎎)	調査及び備考	残存状況
1 須恵器	坏 H 垂	N-B	SH03	12.8	5.0		天井部外面へう割り	天井部完存	口縁部1/6残存
2 須恵器	坏 H 垂	N-B	SH03	復11.8	4.5		天井部外面へう割り	口縁部内外面回転ナナ	口縁部2/12、天井部1/2残存
3 須恵器	坏 H	N-B	SH03	復11.6	4.6		復10.2 体部内外面横ナナ	底部外面へう割り、内面仕上げナナ	口縁部わずか、受部1/3、底部1/4残存
4 須恵器	台付 環	N-B	SH03		残5.2		内面回転ナナ	口縁部外面横ナナ	体部外面へう割り
5 土師器	高 環	N-B	SH03		残5.3		体部外面横ナナ	復10.2 体部外面へう割り	口縁部1/9、体部1/4残存、底部、脚部は欠損
6 土師器	高 環	N-B	SH03	復12.6	4.8		復 8.1 口縁部外面横ナナ	復10.2 体部外面へう割り	口縁部、体部1/4残存
7 土師器	高 環	N-B	SH03	14.5	残5.7		体部外面横ナナ?	磨滅のため調整不明	口縁部ほぼ完存
8 土師器	高 環	N-B	SH03		残7.9		脚部外面横ナナ	復9.9 脚部外面横ナナ、内面ハケ目	脚部ほぼ完存
9 土師器	高 環	N-B	SH03	14.7	残6.9		体部内外面横ナナ	全体に磨滅のため調整不明	脚部ほぼ完存
10 土師器	高 環	N-B	SH03		残4.8		復 9.1 脚部内外面横ナナ	脚部外面横ナナ	脚部ほぼ完存
11 土師器	高 環	N-B	SH03		残5.7		復 9.2 脚部内外面横ナナ	脚部外面横ナナ	脚部のみ残存
12 土師器	高 環	N-B	SH03		残4.8		復 9.0 脚部内外面横ナナ	脚部外面横ナナ	脚部完存、底部3/4残存
13 土師器	高 環	N-B	SH03	15.7	16.8		復 8.6 全体に磨滅し重量不明	口縁部内面横ナナ	脚部のみ残存
14 土師器	高 環	N-B	SH03	残10.1			復 8.8 脚部は磨滅のため調整不明	脚部内面に指面痕	脚部のみ残存
15 土師器	高 環	N-B	SH03	復20.5	16.4		復12.5 体部は磨滅のため調整不明	脚部内面に指面痕	体部1/2残存
16 土師器	瓶	N-B	SH03		残5.1		復12.5 体部は磨滅のため調整不明	脚部内面に指面痕	体部1/2残存
17 土師器	壺	N-B	SH03		残6.6	復14.9	復12.5 体部は磨滅のため調整不明	脚部内面に指面痕	把手部のみ残存
18 土師器	壺	N-B	谷伏地形		残13.8	残4.8	復13.8 体部内外面横ナナ	復12.5 体部は磨滅のため調整不明	脚部、径の1/5残存
19 土師器	甕	N-B	SH03		復15.0	復12.0	復17.0 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部1/6、肩部一部残存
20 土師器	甕	N-B	SH03		復13.2	残5.7	復13.2 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部1/9、体部上半5/12残存
21 土師器	甕	N-B	SH03		残5.0		復13.2 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部、体部1/4残存
22 土師器	甕	N-B	SH03		復17.7	残4.8	復17.7 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	底部のみ完存
23 土師器	甕	N-B	SH03		復19.3	残6.3	復19.3 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部1/9残存
24 土師器	甕	N-B	SH03		復17.7	残7.8	復17.7 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部1/9残存
25 土師器	甕	N-B	SH03		残17.5	復18.4	復17.5 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部、体部2/5残存
26 土師器	甕	N-B	黒褐色土器		残4.1		復18.4 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	底部は欠損
							復18.4 口縁部内外面横ナナ	体部外面横ナナ	口縁部わずかに残存

種別	跡遺	地区	出土遺構	層位	口徑(m)	長さ(m)	幅(m)	調査(m)	調査及び備考	残存状況
27 土師器	環	IV-B	SH 03	埋	復14.4	残5.5			口縁部内外面傾斜方向ハハ目、内面傾方向開リ	口縁上部1/2、胴部2/12、甬部わずかな残存
28 土師器	蓋	IV-B	SH 05		復15.8	残4.9			口縁部内外面傾斜方向開リ 他は不明	口縁部～胴部1/4残存
29 須恵器	坏 H 蓋	V-B	SH 08		復13.2	残3.8			天井部ヘラ開リ、内面凹縁ナリ	口縁部～胴部1/4残存 天井部中心部は欠損
30 須恵器	把手付埴	V-B	SH 08		復11.4	8.8		6.8	体部内外面傾ナリ、12本の縦溝状文、縁が5条ある。底部傾方向開リ	口縁部1/2欠損、体部3/4残存、底部完全、把手は欠損
31 土師器	高 坏	V-B	SH 08		13.3	残4.6			体部内外面傾ナリ、見込み部仕上げナリ	口縁部7/9残存体部上半出完存 胴部は欠損
32 土師器	高 坏	V-B	SH 08		復14.0	11.5			体部内外面傾方向ハハ目、内面傾方向ハハ目、内面傾め方向ハハ目	口縁部1/2欠損、他は1/4残存
33 土師器	高 坏	V-B	SH 08		残10.0				体部内外面傾方向ハハ目、内面傾方向ハハ目、内面傾め方向ハハ目	口縁部口縁欠損、体部1/4 胴柱部のみ残存
34 土師器	小型短蓋	V-B	SH 08	埋上下層		残6.5	復8.2	復4.0	胴部内外面傾ナリ 体部内外面傾ナリ、内面傾め方向指ナリ	胴部上部欠損、胴柱部～甬部1/4残存
35 須恵器	坏 H 蓋	IV-B	SH 10		残2.5	復14.0			天井部外周縁ナリ、内面凹縁ナリ 口縁部内外面傾ナリ	胴部上部欠損、胴柱部～甬部1/2残存
36 須恵器	高 坏	IV-B	SH 10		残4.0			復11.0	胴柱部外周縁ナリ、四方透かし、内面凹縁ナリ、甬部内外面傾ナリ	胴部上部欠損、胴柱部～甬部1/2残存
37 土師器	坏	IV-B	SH 10		12.3	5.2			口縁部内外面傾ナリ 体部外面傾め方向開リ、内面傾め方向ハハ目との不定方向仕上げナリ	口縁3/4、体部8/9残存、底部は完存
38 土師器	坏	IV-B	SH 10		復12.2	残3.7			体部内外面傾ナリ、内面ハハ目状の条痕者リ	口縁～体部1/4残存
39 土師器	土師器 土師器 土師器	IV-B	SH 10		4.2	残3.2			外面傾め方向のナリ 内面傾め方向のナリ	1/2強が残存
40 土師器	蓋	IV-B	SH 10		復15.3	残6.9			口縁部内外面傾ナリ 体部外面傾め方向ハハ目?、内面傾め方向ハハ目?	口縁1/4、体部若干残存
41 土師器	蓋	IV-B	SH 10		復15.6	残5.5			口縁部内外面傾ナリ、胴部縁ナリ 体部外面傾め方向ハハ目、内面傾め方向ハハ目	口縁部1/5、胴部若干残存
42 土師器	蓋	IV-B	SH 10		復17.0	残5.3			口縁部内外面傾ナリ、胴部縁ナリ 体部外面傾め方向ハハ目、内面傾め方向開リ	口縁部1/36、胴部1/6残存
43 土師器	蓋	IV-B	SH 10		17.4	残8.4			口縁部内外面傾ナリ 体部外面傾め方向ハハ目、内面傾め方向開リ	口縁～胴部完全、胴上部1/2残存
44 須恵器	坏 H	IV-B	SX 01			残3.2	復7.6		体部内外面傾ナリ 底部外面ヘラ開リ、内面仕上げナリ	底部1/4残存 立ち上がり部は欠損
45 須恵器	坏 B	IV-B	SX 01		復14.5	4.2	復11.0		体部内外面傾ナリ 底部内面仕上げナリ、外面ヘラ切リ	口縁部1/12 体部1/4 底部1/2残存
46 須恵器	坏 B	IV-B	SX 01		復14.7	4.6	復11.2		体部内外面傾ナリ 底部内面仕上げナリ、外壁ヘラ切リ未調整	口縁～体部1/3残存
47 土師器	蓋	IV-B	SX 01		復14.2	残4.5			口縁部内外面傾ナリ	口縁～胴部1/5残存
48 土師器	環 A	IV-B	SX 01		復10.5	残11.1			口縁部内外面傾ナリ 体部内外面傾め方向ハハ目、口縁部内面傾め方向ハハ目	口縁部1/4、胴上部わずかに残存、体部若干残存
49 土師器	蓋	IV-A	Pit 8		復15.2	残4.3			口縁部内外面傾ナリ 体部内面傾ナリ	口縁～胴部5/6残存
50 須恵器	坏 B	IV-B	溝状遺構		復15.8	残4.8		復11.6	口縁部内外面傾ナリ 体部内外面傾ナリ	口縁～体部1/4残存、底部ほぼ完存
51 土師器	蓋	IV-B	土師器		復15.7	残3.8			口縁部内外面傾ナリ 体部内面傾め方向ハハ目	口縁部1/4残存
52 土師器	蓋	IV-B	土 坑		復14.6	残4.6			口縁部内外面傾ナリ 体部外面傾め方向ハハ目、内面傾め方向開リ	口縁部1/4、胴上部わずかに残存
53 土師器	環 A	IV-B	溝状遺構		復45.8	残9.5			口縁部外面傾め方向ハハ目のみ傾ナリ、内面傾ナリ	口縁5/12、体部2/3残存

種別	器種	地区	出土遺構	層位	口徑 <sup>(a)</sup>	高さ <sup>(a)</sup>	底径 <sup>(a)</sup>	底高 <sup>(a)</sup>	調査 <sup>(a)</sup>	備考	残存状況
54	灰土壺	V-B	谷状地形	灰5.0	残5.0	残5.0	復9.0	9.0	体部内外面磨滅のため裏蓋不明	底部完全	体部下半1/4残存
55	灰土壺	V-B	谷状地形	残4.2	残4.2	残4.2	復8.0	8.0	体部外面縦方向ハケ目、内面斜め方向ハケ目	底部1/4残存	残存
56	灰土壺	V-B	谷状地形	復12.5	残4.3	残4.3	復12.5	12.5	天井部外面ハケ目、内面回転ナデ	口縁部1/6	全体の1/6残存
57	土師器	N-B	谷状地形	復17.5	残4.3	残4.3	復17.5	17.5	口縁部内外面横ナデ 体部外面斜め方向ハケ目、内面縦方向ハケ目	口縁～頸部1/4残存	残存
58	灰土壺	N-B	臺土層倒	18.9	1.4	1.4	復18.9	18.9	天井部外面回転ハケ目、内面回転ナデ	口縁部1/2を欠く以外ほぼ完全	残存
59	灰土壺	N-B	臺土	復13.2	残4.0	残4.0	復13.2	13.2	体部内外面回転ナデ 天井部外面ハケ目	口縁部1/4	天井部1/6 ママミは欠損
60	灰土壺	A	N-B	臺土	復13.8	3.8	復9.8	9.8	体部内外面回転ナデ 底部ハケ目	口縁1/6、底部1/3残存	残存
61	灰土壺	B	N-B	臺土	残1.3	残1.3	復10.0	10.0	底部内外面回転ナデ、外面ハケ目	底部のみ1/9残存	残存
62	灰土壺	N-B	臺土層倒	復27.8	残3.5	残3.5	復27.8	27.8	口縁部内外面横ナデ 体部外面ハケ目、内面縦方向ハケ目	口縁～頸部2/9残存	残存
63	土師器	N-B	臺土	黒褐色土	復35.8	残4.6	復35.8	35.8	口縁部内外面横ナデ 体部外面ハケ目、内面縦方向ハケ目	口縁～頸部2/9残存	残存
64	土師器	A	N-B	臺土	復34.4	残3.5	復34.4	34.4	口縁部外面、体部内外面斜め方向ハケ目、口縁部内面縦方向ハケ目	口縁1/9、体部上半1/6残存	残存
65	土師器	C	N-B	黒褐色土	復8.7	2.1	復5.3	5.3	体部内外面横ナデ 底部外面ハケ目	口縁1/10、底部1/9残存	残存
66	土師器	C	N-B	臺土層	残1.6	残1.6	復5.6	5.6	体部内外面横ナデ 底部外面未切り	底部1/2弱、体部わずかに残存	残存
67	土師器	C	N-B	臺土層	復9.6	2.4	復5.8	5.8	体部内外面横ナデ 底部外面未切り	口縁1/5残存、底部ほぼ完全	残存
68	瓦器	N-B	臺土	黒褐色土	復16.0	残4.3	復16.0	16.0	体部外面横ナデ 内面回転ナデのち磨き	口縁～体部1/2残存	残存
69	瓦器	N-B	臺土	黒褐色土	復15.8	残4.5	復15.8	15.8	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～体部1/9残存	残存
70	瓦器	H	N-B	臺土	復10.0	残4.5	復10.0	10.0	体部内外面横ナデ 内面横ナデ	口縁1/18、体部1/4残存	残存
71	灰土壺	H	N-B	臺土層	残3.3	残3.3	復6.2	6.2	体部内外面横ナデ 底部外面ハケ目、内面仕上げナデ	底部1/4残存 立ち上がり部は欠損	残存
72	土師器	N-A-B	高坏	褐色土	復13.8	残3.6	復6.2	6.2	体部外面斜め方向ハケ目、内面斜め方向磨き	口縁部1/5、頸部は完全	残存
73	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	復13.7	残3.3	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
74	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	復13.7	残3.3	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
75	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	残5.6	残5.6	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
76	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	残5.4	残5.4	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
77	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	残5.0	残5.0	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
78	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	残5.0	残5.0	復6.2	6.2	体部外面横ナデ 内面横ナデ	口縁～頸部は完全	残存
79	土師器	N-A-B	高坏	黒褐色土	復16.8	残5.7	復4.1	4.1	体部外面横ナデ 系の圧痕残る	体部1/2残存	口縁部欠損
80	土師器	N-B	臺土	黒褐色土	復13.0	残5.1	復6.1	6.1	口縁部内外面横ナデ 体部外面ハケ目、内面縦方向ハケ目	口縁部1/3、肩部若干残存	残存
81	土師器	N-B	臺土	黒褐色土	残3.6	残3.6	復6.1	6.1	口縁部内外面横ナデ 表面磨き強い	口縁部欠損	口縁1/6残存
82	土師器	N-A-B	臺土	黒褐色土	復18.6	残3.6	復6.1	6.1	口縁部内外面横ナデ 体部内面縦方向ハケ目	口縁部1/4残存	残存

種別	器種	地区	出土遺構	層位	口徑(㎝)	器高(㎝)	口径(㎝)	重量(㎏)	調査及び備考	残存状況
83	土師器 甕	N-B		赤土褐色土層	復13.3	現11.3	復16.3		口縁部、体部外面傾斜め方向ハケ目、口縁内面傾斜め方向側り	口縁部3/4残存 体部1/2残存
84	須恵器 坏	A	V-B		13.2	4.4		8.8	体部内外面傾斜ナリ 底部へラ切りのち仕上ナリ	口縁部7/18欠損 体部ほぼ全残存
85	須恵器 坏	B	N-B	褐色土	復16.3	2.9			天井部外面1/2へラ削り 体部外面傾斜ナリ、内面回転ナリ	口縁部1/18残存
86	須恵器 坏	B	N-B	褐色土	現4.3				復7.8 体部内外面傾斜ナリ 底部外面へラ削り	底部1/4 体部下半1/9残存
87	須恵器 坏	E			復14.8	6.1			復7.8 体部内外面傾斜ナリ 底部外面へラ削り	口縁部1/3残存 底部は1/4残存中心は欠損
88	須恵器 甕	N-B	盛土		現12.3	復17.9			体部内外面回転ナリ	体部1/5残存
89	土師器 坏	N-B	SH09層	褐色土	復12.7	現4.8			復5.6 体部内外面傾斜ナリ	1/2が残存
90	土師器 皿	C	溝敷区画層		8.6	2.3			5.4 体部-底部内面回転ナリ 底部外面垂直切り	完全
91	須恵器 埴	N-B			現1.8				復6.9 底部外面回転垂直切り、内面回転ナリ	底部1/3残存
92	土師器 埴	D	北壁面		現2.5				復7.0 底部内面傾斜ナリ、外面へラ削り	底部1/4残存
93	土師器 甕	トレンチ3	住居	下面	復17.2	現5.6			口縁部外面傾斜ナリ 体部外面傾斜め方向ハケ目、内面傾斜め方向側り	口縁部-頸部1/4残存
94	土師器 甕	トレンチ3	住居A土坑		13.6	22.0	20.5		口縁部内外面傾斜ナリ 体部外面ハケ目、内面傾斜め方向側り	ほぼ完全、底部若干と体部の一部を欠損
95	土師器 甕	トレンチ3	住居A土坑		16.8	28.0	26.9		口縁部内外面傾斜ナリ 体部外面ハケ目、内面傾斜め方向側り	ほぼ完全、底部若干と体部の一部を欠損
96	土師器 皿	トレンチ3上層		茶褐色土	現1.7				復10.2 底部外面、見込み部分回転ナリ	底部、高さ1/4残存
97	土師器 坏	A	トレンチ3	焼土	復2.0	現3.5			6.8 体部内外面傾斜ナリ 底部外面へラ削り	口縁部1/8残存
98	土師器 甕	トレンチ3上層	焼土層辺		復14.8	現3.6			口縁部内外面傾斜ナリ	口縁部1/8残存
99	土師器 甕	トレンチ3	焼土	塋土	復17.4	現4.8			口縁部外面傾斜ナリ、内面傾斜め方向ハケ目 体部内面傾斜め方向側り	口縁部-頸部1/9残存
100	須恵器 坏	H	住居1		復12.1	現4.5			天井部外面へラ削り、内面回転ナリ 口縁部内外面傾斜ナリ	口縁部-天井部1/3残存
101	土師器 甕	トレンチ16	住居1		復12.0	11.0	復13.8		復8.9 口縁部外面傾斜め方向ハケ目、体部外面傾斜め方向ハケ目、内面傾斜め方向側り	口縁部-胴部1/3、体部1/3、底部1/3、体部1/4残存
102	土師器 甕	トレンチ16	土坑	塋土内	復13.8	現9.2			口縁部内外面傾斜ナリ 体部外面傾斜め方向ハケ目、内面傾斜め方向側り	口縁部-胴部1/4残存
103	土師器 甕	トレンチ16			復15.7	現6.5			口縁部内外面傾斜ナリ 体部外面傾斜め方向ハケ目、内面傾斜め方向側り	口縁部1/6、胴部1/7残存
104	土師器 甕	トレンチ16			復18.4	現9.3			口縁部内外面傾斜ナリ 胴部外面傾斜め方向ハケ目	口縁部-頸部5/9、胴部1/4残存
105	土師器 坏	トレンチ16			14.9	現6.5			体部外面傾斜め方向ハケ目 体部内面傾斜め方向側り	坏部10/11残存、他は欠損
106	須恵器 坏	H	住居5	周溝内	復11.9	現4.4			坏部内外面傾斜め方向ハケ目	口縁部1/8 焼から天井部1/3残存

第6表 大田和遺跡金属製品観察表

No.	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地区	土 層	遺 構	備 考
M 1	鏃	鉄	残7.5	1.66	0.48	Ⅳ-B		盛土状遺構	鏃身、茎一部欠損
M 2	釘	鉄	残8.49	0.63	0.66	Ⅳ-B		盛土状遺構	脚部先端欠損
M 3	鏡	銅	2.4	2.4	0.2		汚れた灰茶色土	下側テラス状遺構	

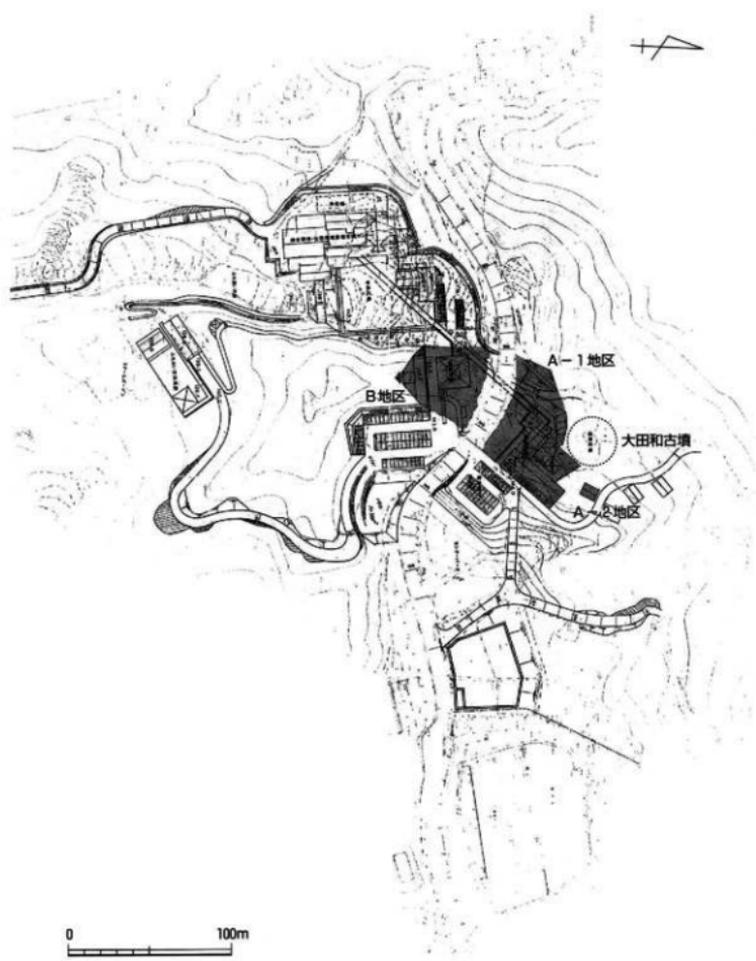
第7表 大田和遺跡石製品観察表

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	地区	遺 構	土 層	備 考
S 1	石皿	17.52	11.43	5.49	2,160	V-B	SH 0 3		全体に被熱している
S 2	石皿	34.9	27.3	9.8	14,700	V-B	SH 0 3		
S 3	台石	15.9	15.3	6.5	1,700	V-B	SH 0 3		
S 4	叩石	17.15	7.2	5.9	1,020	Ⅳ-B		表上下褐色土層	全体に被熱している
S 5	砥石	15.45	7.25	4.05	780	Ⅳ-B		表上下褐色土層	
S 6		6.75	3.8	1.1	25	V-B			
S 7	砥石	13.78	7.23	3.99	540	Ⅳ-B	盛土状遺構		砥石としても使用

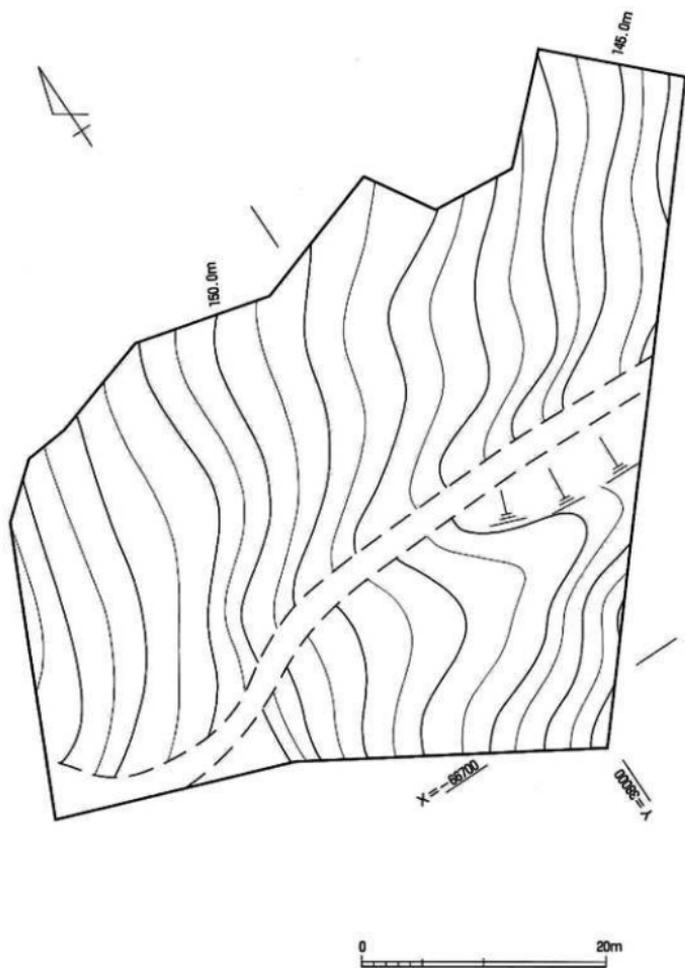
### 第 8 表 大田和遺跡玉類観察表

報告書No.	種類	形状	地区	遺構名	長さ (mm)	径・幅 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	穿孔 方向	材質	色調	残存状況
J1	白玉			SH03 南北トレンチ	5	4.5	4	2	一方向	緑泥片岩	灰白色	一部欠損
J2	白玉			SH03 東西畦	3.8	3.5	2.2	1.5~1.0	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J3	白玉			SH03 東西畦	5	4.7	1.8	2.0~1.2	一方向	緑泥片岩	にぶい 黄橙色	完 存
J4	白玉			SH03 南北トレンチ	4.1	4.0	2.4	1.9	一方向	緑泥片岩	緑灰色	完 存
J5	勾玉			SH03 土坑 A	12	8.5	3.5	2	一方向		暗灰色	完 存
J6	管玉			SH08 N 区	18.7	4.0		1.5	二方向	燧岩 起濁片岩	緑灰色 暗緑灰色	完 存
J7	白玉			SH10 S W 区	4.2	3.5	1.5	2	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J8	白玉	算盤玉形		SH10 N 区	5	4.3	4	2.0~1.5	一方向	緑泥片岩	緑灰色	完 存
J9	白玉			SH10 N 区	4.5	4.3	3	2	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J10	白玉			SH10 N 区	4	4	2.2	2.0~1.7	一方向	緑泥片岩	緑灰色	完 存
J11	白玉		IVB区	SH10	4.1	4.1	3.6	2	一方向	緑泥片岩	緑灰色	一部欠損
J12	白玉	算盤玉形		SH10 土坑	5	5	3	2.5~2.0	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J13	白玉	算盤玉形		SH10 祭祀土坑	5	5	2.2	2.5~1.7	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J14	白玉	算盤玉形		SH10 祭祀土坑	5	5	1.5	2.5~2.0	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存
J15	白玉	算盤玉形	VB区	SX02	5.8	5.5	4.2	2.2~2.0	一方向	緑泥片岩	緑灰色	完 存
J16	白玉	算盤玉形	VIB区	SX02	5.5	5.3	3	2.2~1.7	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	一部欠損
J17	白玉	算盤玉形	VIB区	SX02	5.5	5.5	3	2.2~1.7	一方向	緑泥片岩	緑灰色	一部欠損
J18	白玉	算盤玉形	VIB区	SX02	4.8	4.5	2.5	1.7	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	一部欠損
J19	白玉	算盤玉形	VB区	土坑	5	5	3	2.5~2.0	一方向	緑泥片岩	明緑灰色	完 存

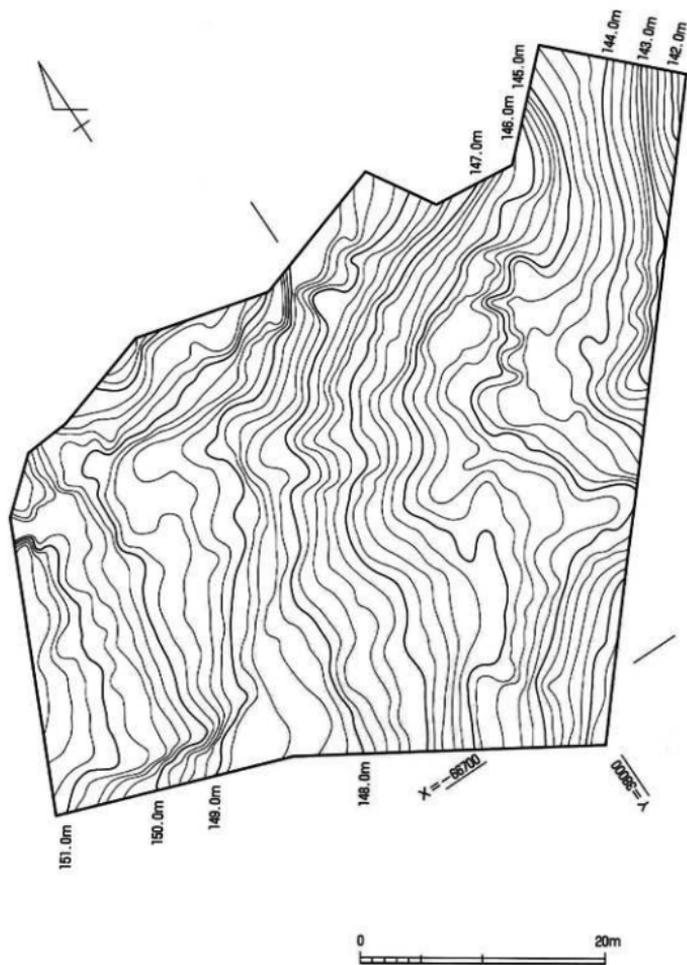
## 图 版



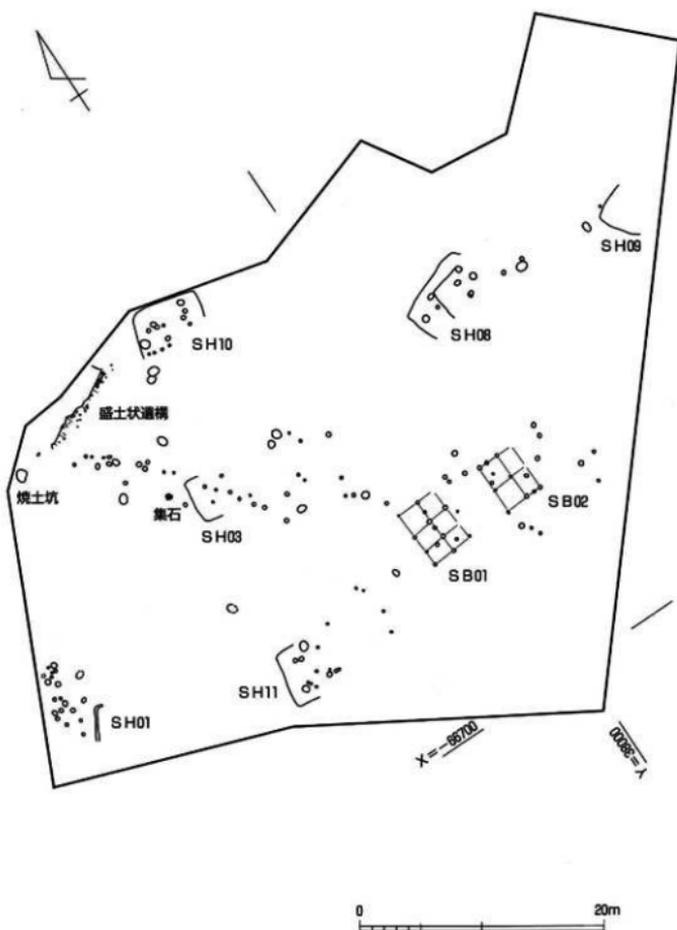
大田和遺跡調査区設定図



A-1 地区调查前地形图

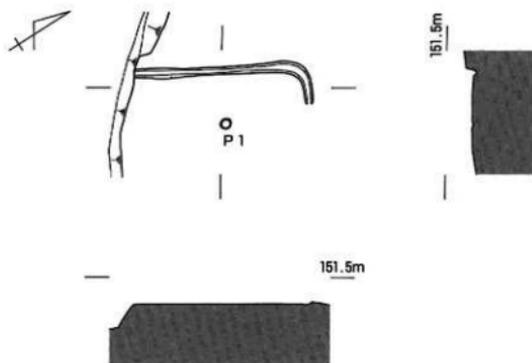


A-1 地区調査後地形図

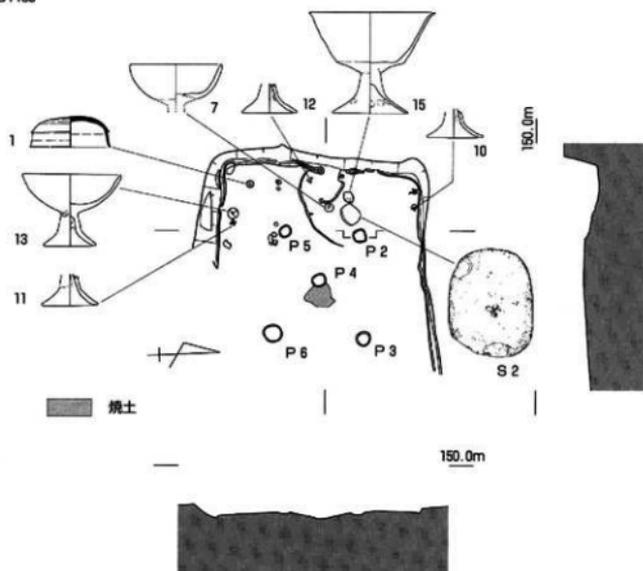


A-1地区遺構配置図

SH01



SH03

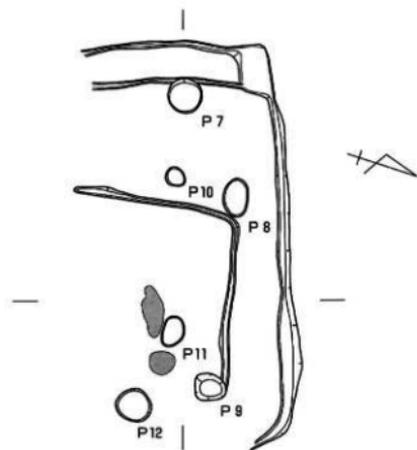


竖穴住居 (1)

SH08  
上層



147.0m

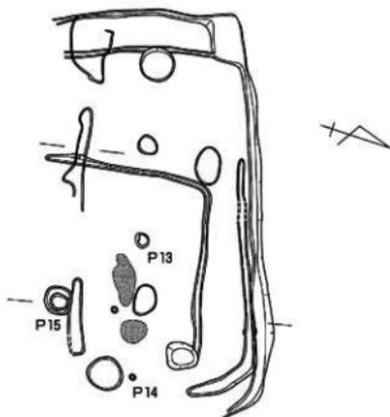


147.0m

下層



146.0m



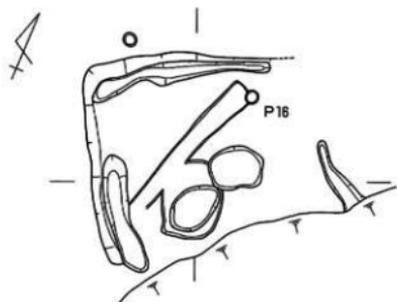
焼土



146.0m



SH09



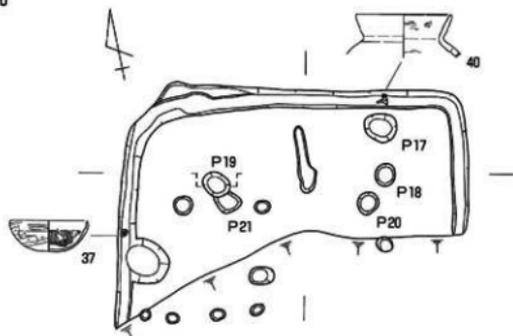
143.5m



143.5m



SH10



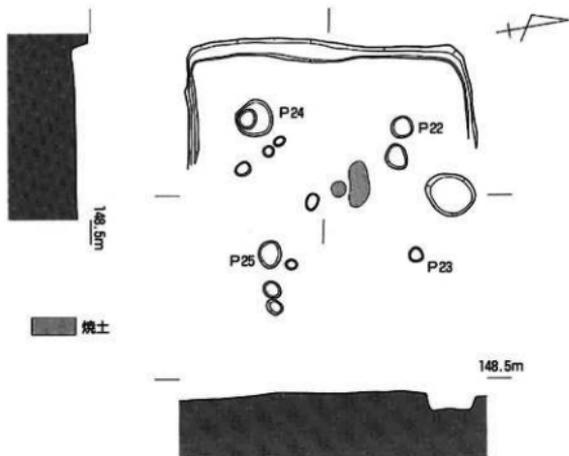
151.0m



151.0m



SH11



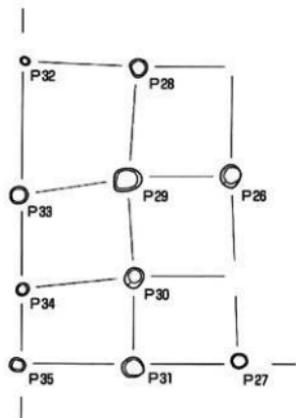
■ 焼土

0 4m

SB01



147.0m



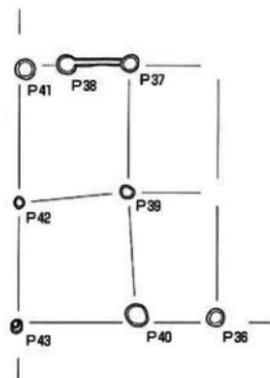
147.0m



SB02



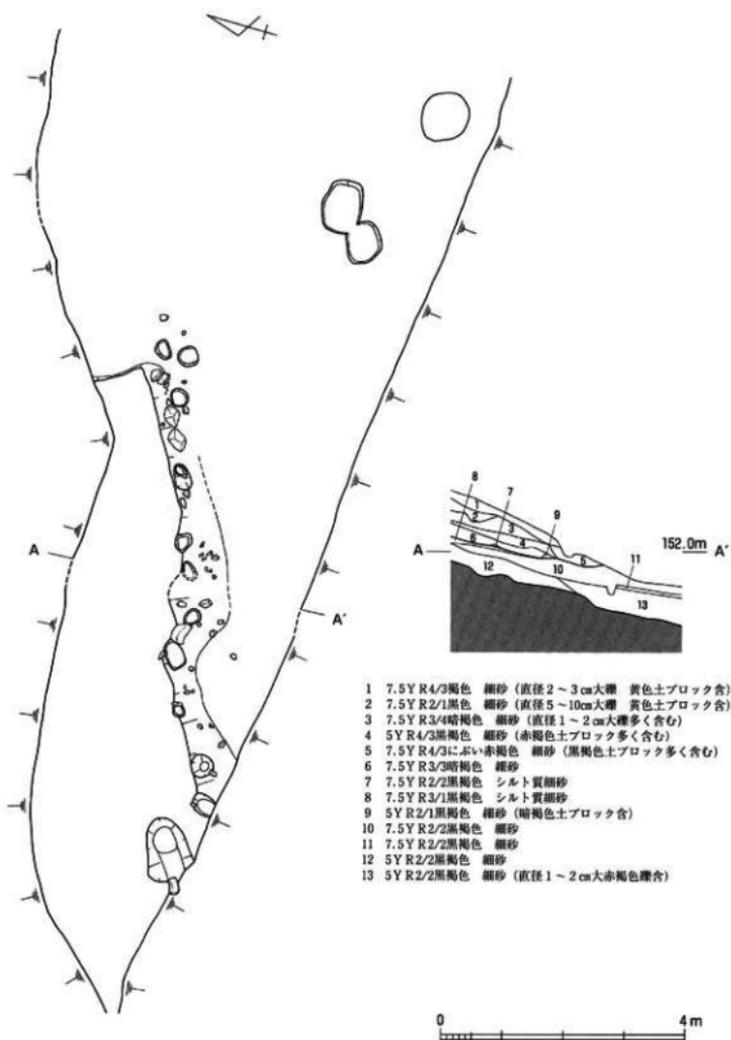
148.0m

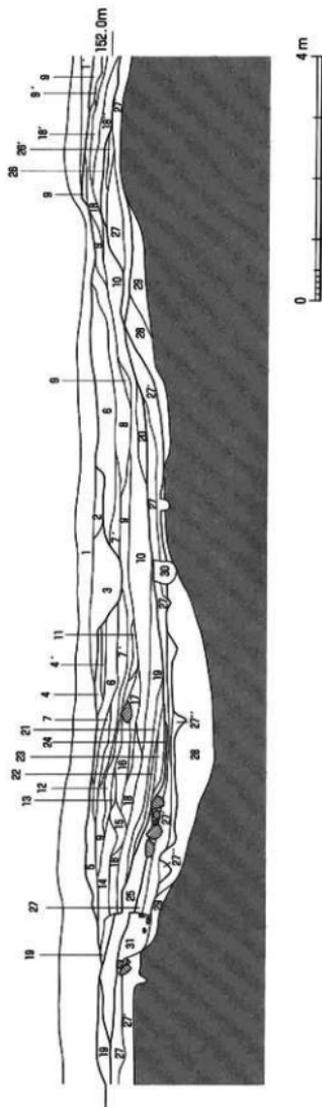


148.0m



掘立柱建物





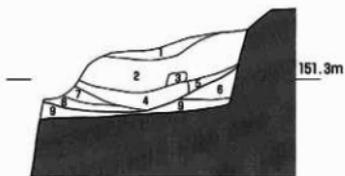
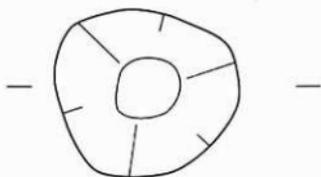
- |    |          |         |                |      |          |        |              |
|----|----------|---------|----------------|------|----------|--------|--------------|
| 1  | 5YR4/6   | 赤褐色     | 表土層            | 17   | 7.5YR3/4 | 暗褐色    | シルト質砂細砂      |
| 1' | 5YR4/6   | 赤褐色     | シルト質細砂         | 18   | 7.5YR3/4 | 暗褐色    | シルト質細砂       |
| 2  | 7.5YR2/3 | 暗褐色     | シルト質細砂         | 18'' | 7.5YR2/2 | 黒褐色    | シルト質細砂       |
| 3  | 10YR7/8  | にぶい、黄褐色 | 海山土混じりタロボク     | 19   | 2.5YR5/4 | にぶい赤褐色 | シルト          |
| 4  | 10YR2/3  | 黒褐色     | シルト質細砂         | 20   | 7.5YR4/3 | 褐色     | シルト質細砂       |
| 4' | 10YR2/4  | 暗褐色     | シルト質細砂 (海山土含む) | 21   |          |        | シルト          |
| 5  | 7.5YR3/2 | 高褐色     | シルト質細砂         | 22   |          |        | 海山土混じりタロボク   |
| 6  | 7.5YR4/3 | 褐色      | シルト質細砂         | 23   |          |        | 海山土混じりタロボク   |
| 7  | 10YR4/1  | 暗灰色     | シルト質細砂         | 24   |          |        | 海山土混じりタロボク   |
| 7' | 10YR4/3  | にぶい、黄褐色 | シルト質細砂         | 25   |          |        | シルト          |
| 8  | 10YR2/1  | 黒色      | シルト質細砂         | 26   | 7.5YR3/3 | 暗褐色    | 細砂           |
| 8' | 7.5YR5/6 | 褐色      | シルト            | 26'  | 7.5YR3/2 | 高褐色    | シルト          |
| 9  | 7.5YR4/4 | 褐色      | シルト            | 27   | 7.5YR3/3 | 褐色     | シルト          |
| 10 | 7.5YR3/2 | 高褐色     | シルト            | 27'' |          |        | シルト          |
| 11 | 2.5YR3/2 | 赤褐色     | シルト            | 28   | 5YR3/4   | 褐色     | シルト質細砂 (黄含む) |
| 12 | 7.5YR2/1 | 黒色      | シルト質細砂         | 29   | 5YR4/4   | 褐色     | シルト質細砂       |
| 13 | 7.5YR3/1 | 高褐色     | 細砂             | 30   | 10YR4/1  | 暗灰色    | シルト質細砂       |
| 14 | 7.5YR3/1 | 高褐色     | 細砂             | 30'  | 7.5YR2/1 | 暗褐色    | シルト質細砂       |
| 15 | 7.5YR2/3 | 暗褐色     | 細砂             | 31   | 7.5YR4/3 | 褐色     | 細砂 (黄含む)     |
| 16 | 7.5YR2/2 | 高褐色     | 細砂             |      |          |        |              |

調査区北側壁土層

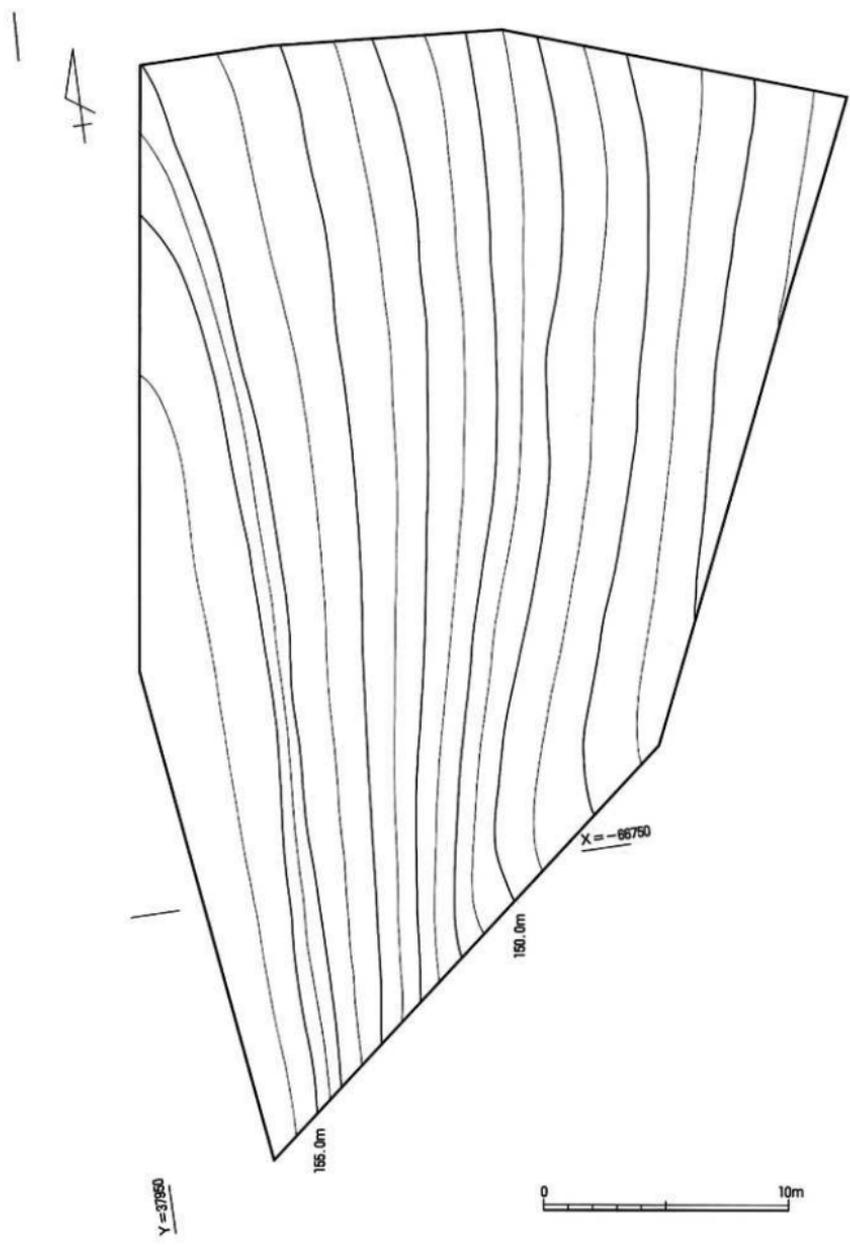
集石土坑



焼土坑



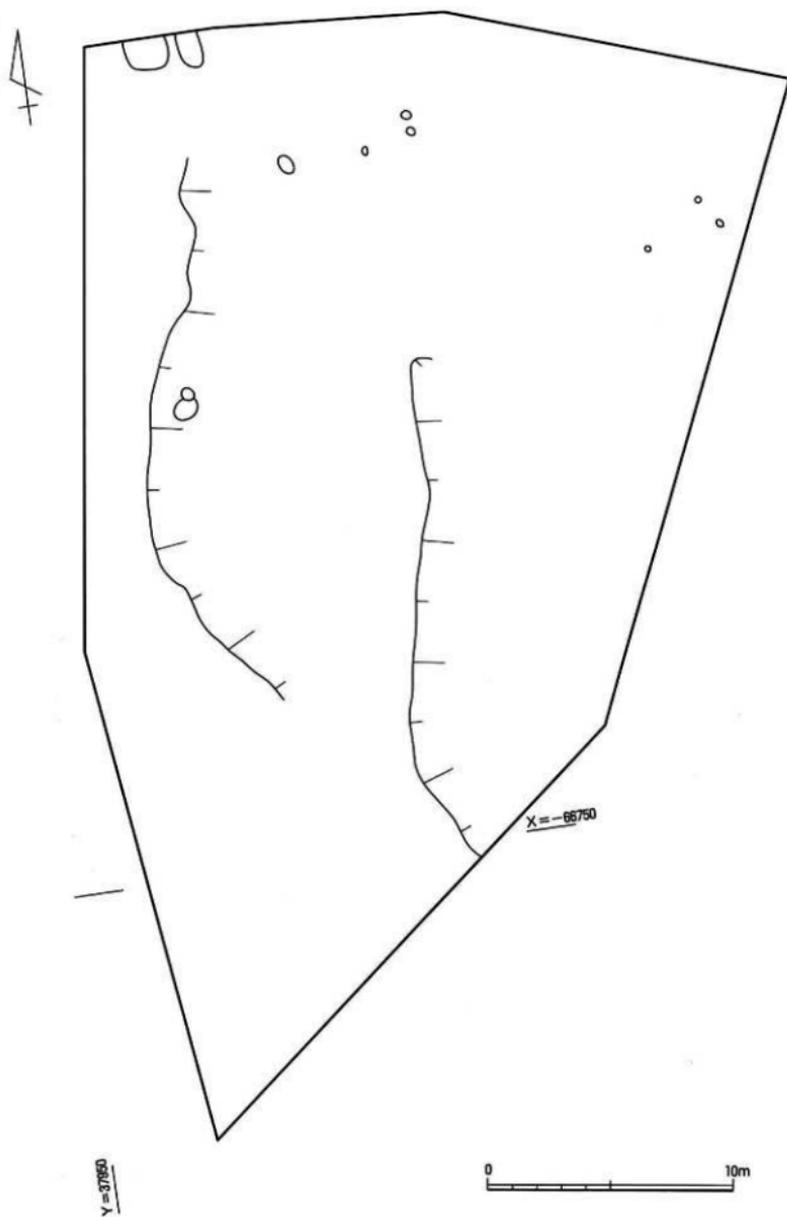
- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 2.5YR4/6 赤褐色 細砂 (焼土)   | 5 5YR3/1 黒褐色 シルト質細砂         |
| 2 5YR3/2 暗褐色 細砂 (炭、焼土粒含) | 6 5YR3/2 暗赤褐色 細砂            |
| 3 炭塊                     | 7 10YR2/1 赤黒色 細砂            |
| 4 炭層                     | 8 2.5YR7/1 赤黒色 細砂 (炭多く含)    |
|                          | 9 2.5YR3/2 暗赤褐色 細砂 (炭、焼土粒含) |



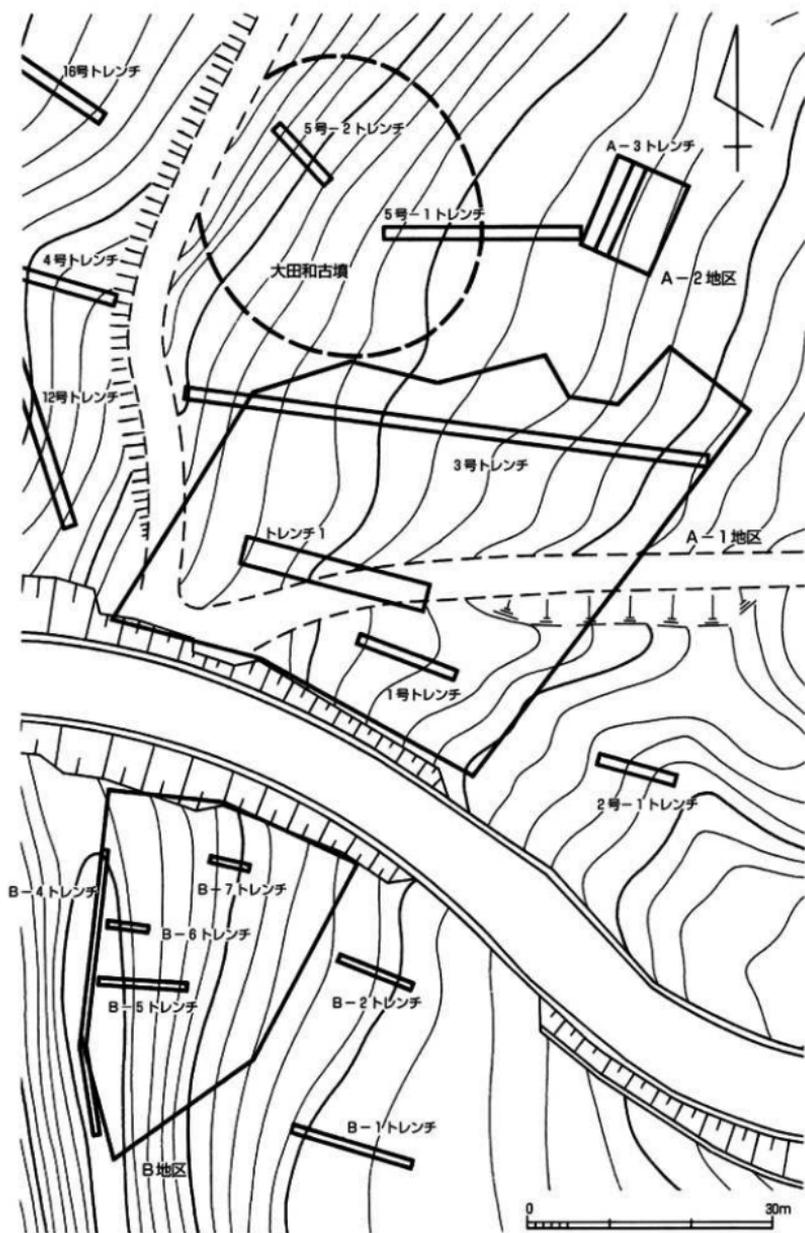
B地区调查前地形图



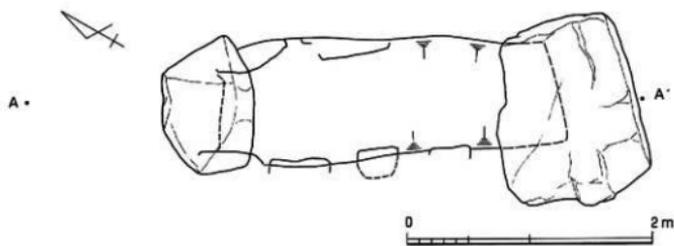
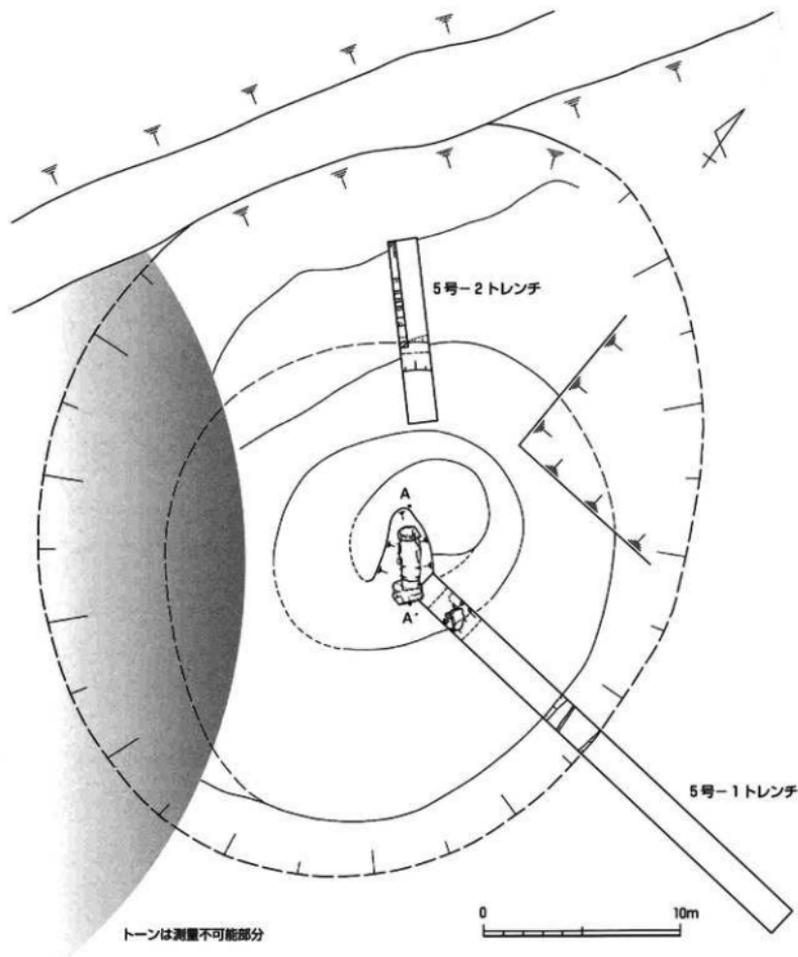
B地区調査後地形図



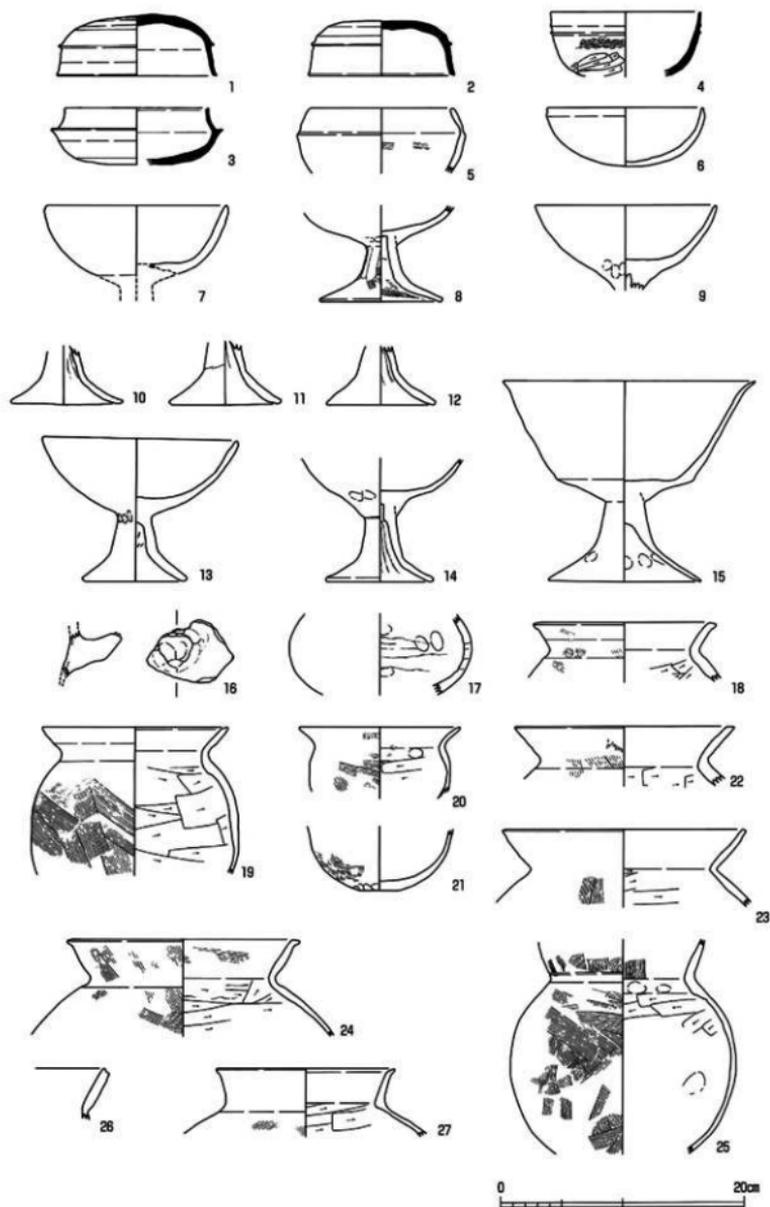
B地区遺構配置図

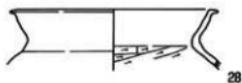


大田和古墳確認調査トレンチ配置図



大田和古墳全体図





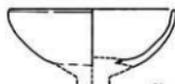
28



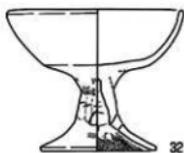
29



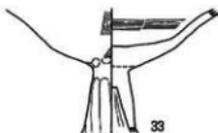
30



31



32



33



34



35



36



37



38



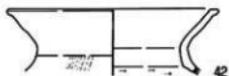
39



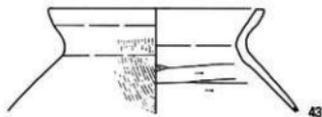
40



41

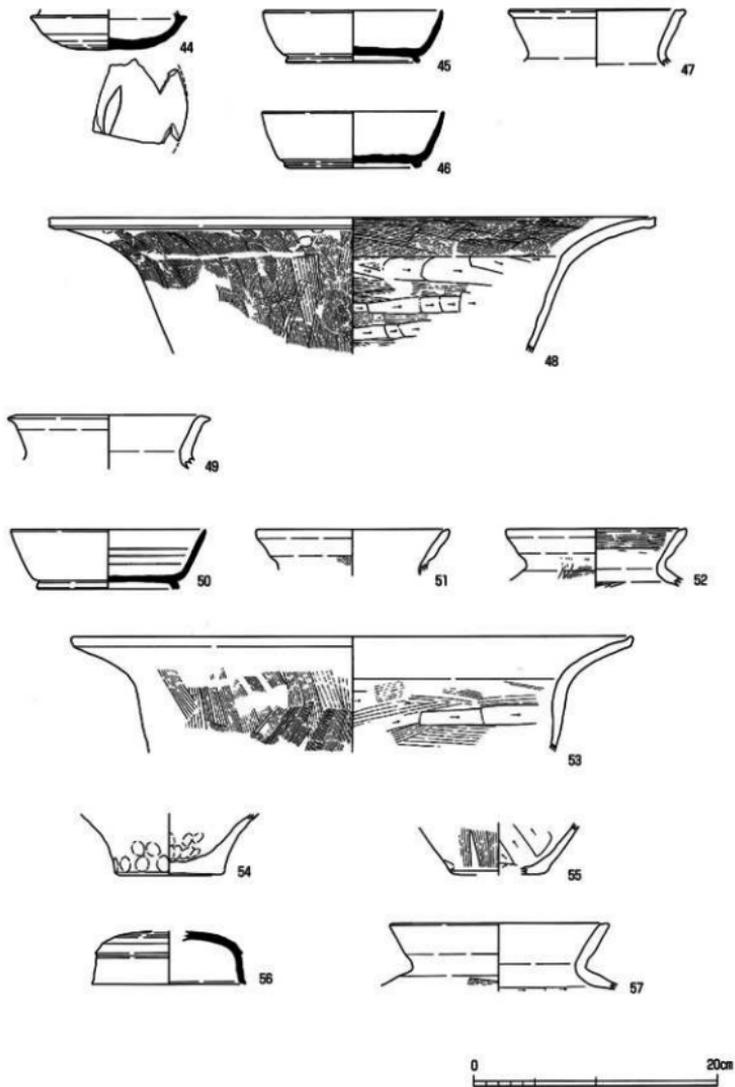


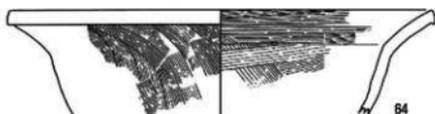
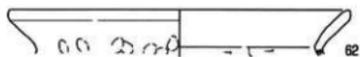
42

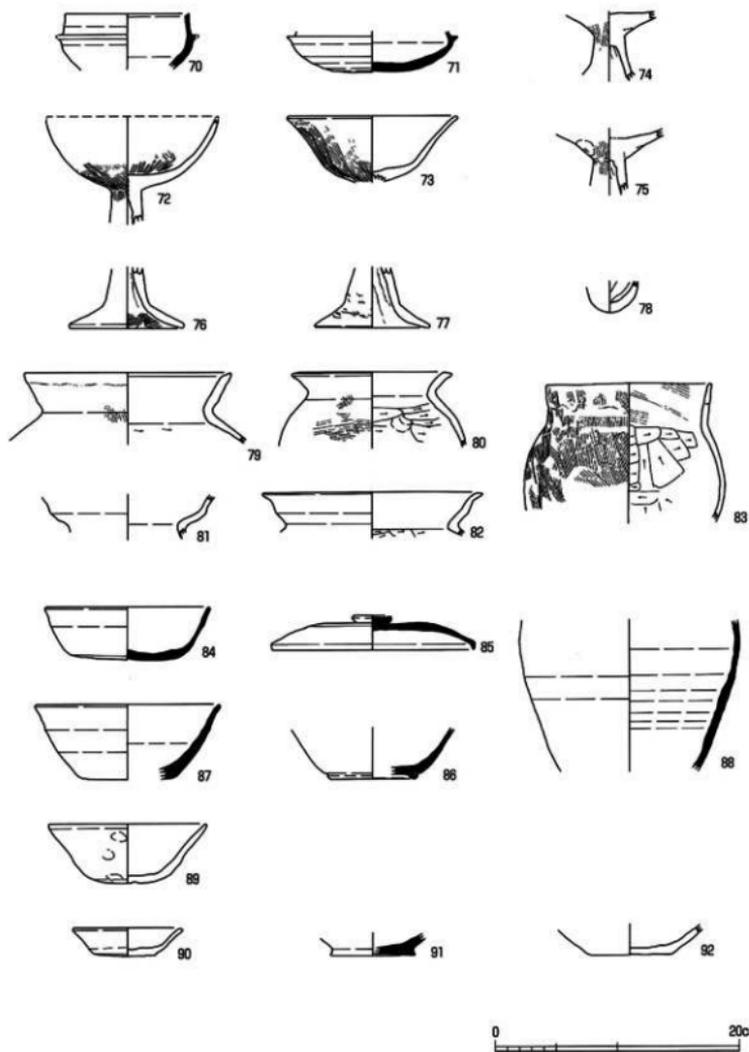


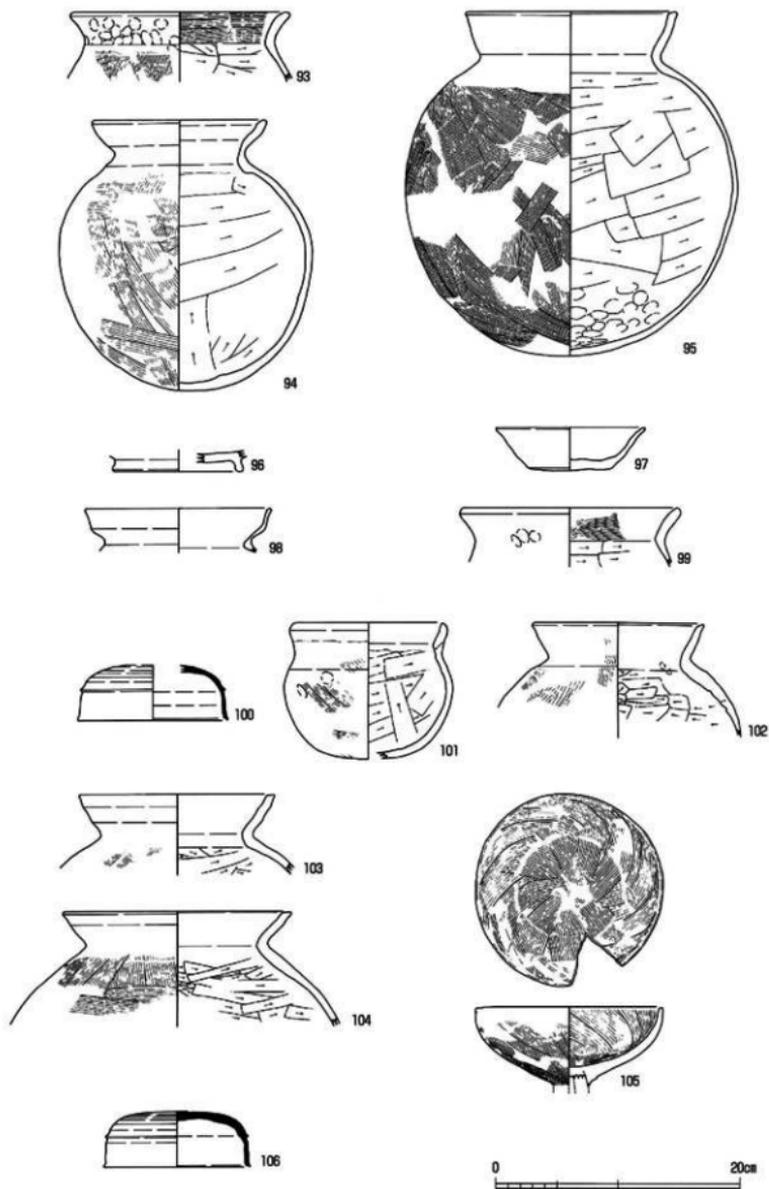
43

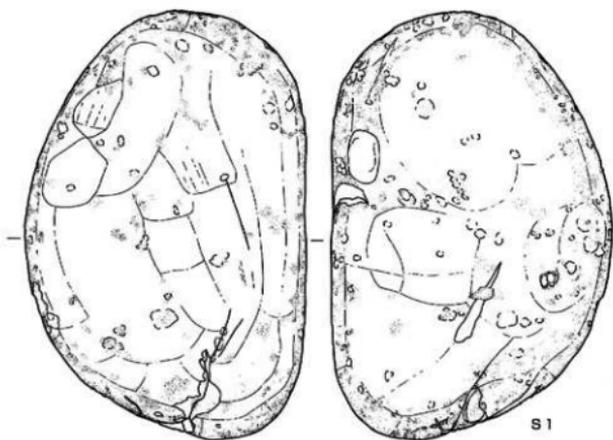






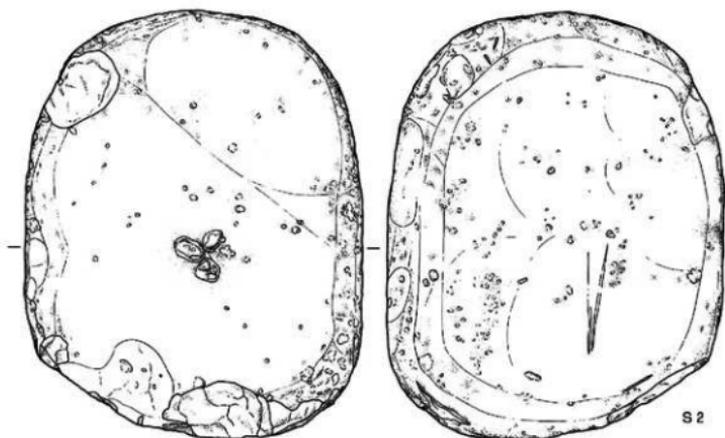






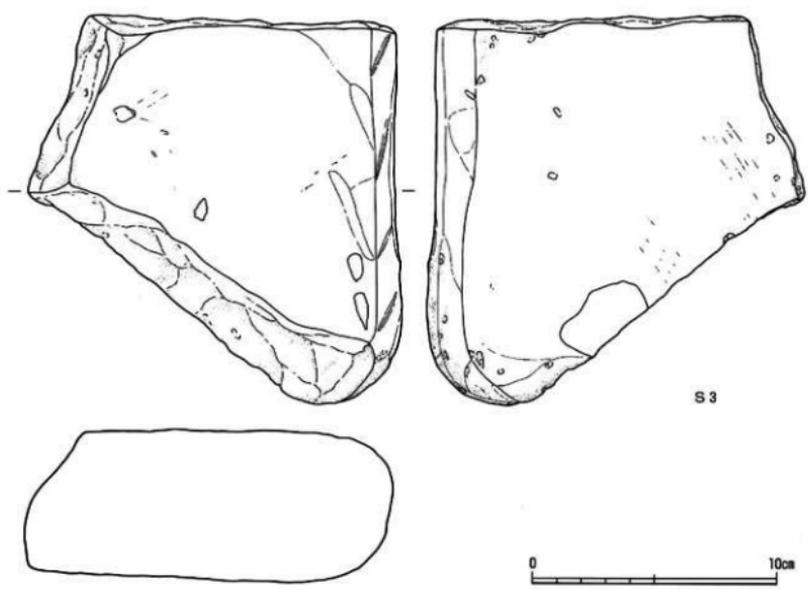
S1

0 10cm

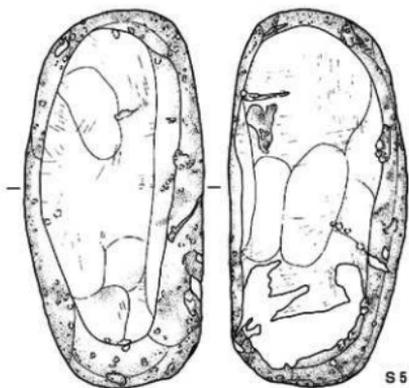
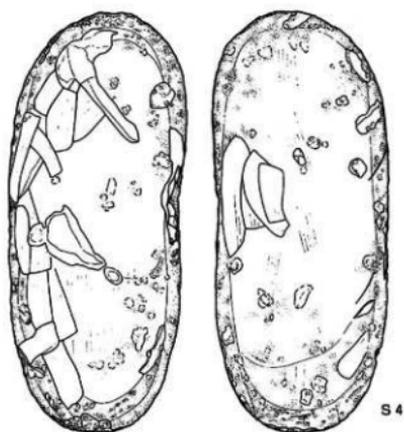


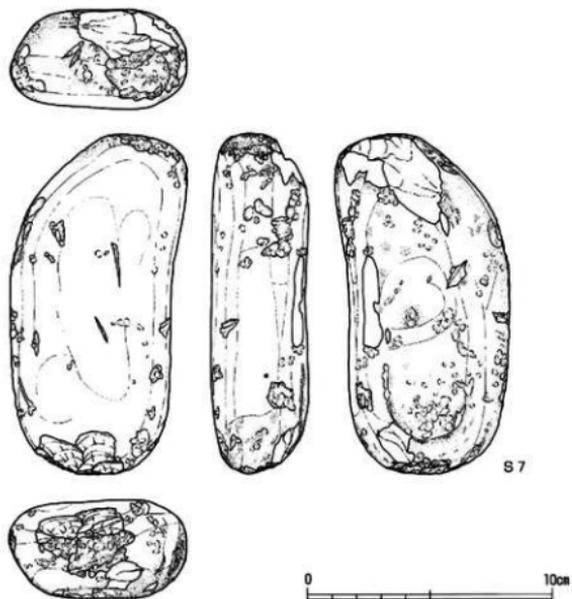
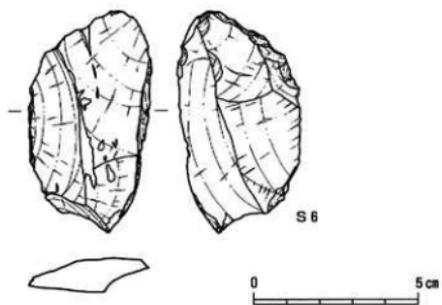
S2

0 20cm

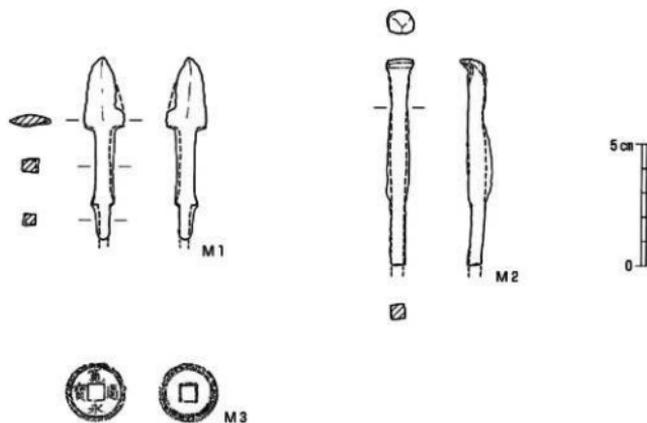
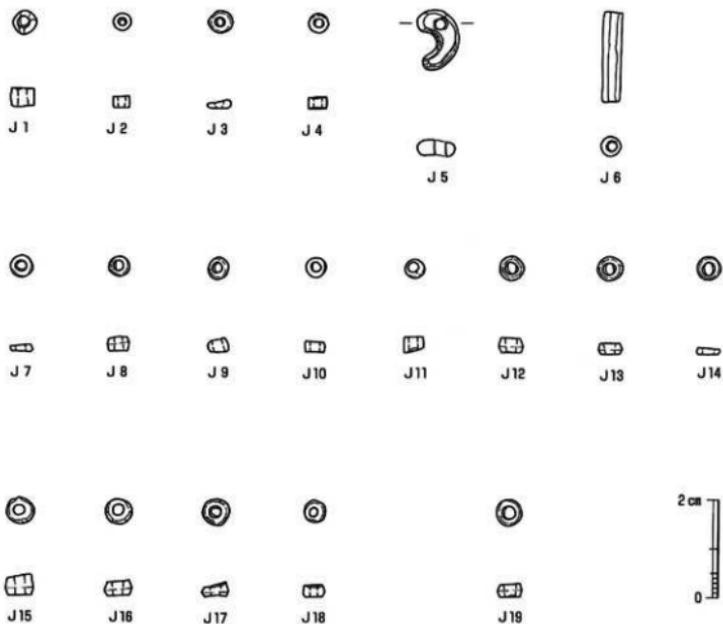


SH03出土石器(2)





包含層・盛土状遺構出土石器



## 写真図版



大田和遺跡空中写真（南東から）



大田和遺跡空中写真（南から）



大田和遺跡全景（南東から）



大田和遺跡全景（南東から）



大田和遺跡調査前A-1地区全景（南東から）



大田和遺跡調査前A-1地区全景（東から）



大田和遺跡調査前A-1地区全景（南東から）



大田和遺跡調査前A-1地区全景（南西から）



大田和遺跡全景（南東から）



大田和遺跡全景（南東から）



大田和遺跡全景（南東から）



大田和遺跡全景（南東から）



SH01 (南東から)



SH01 (北東から)



SH03 (東から)



SH03 (北から)



住居状遺構（東から）



住居状遺構（東から）



SH08 (南東から)



SH08 (南東から)



SH08 (北東から)



SH09 (南から)



SH09 (南東から)



SH10 (南西から)



SH10 (南西から)



SH11 (南西から)



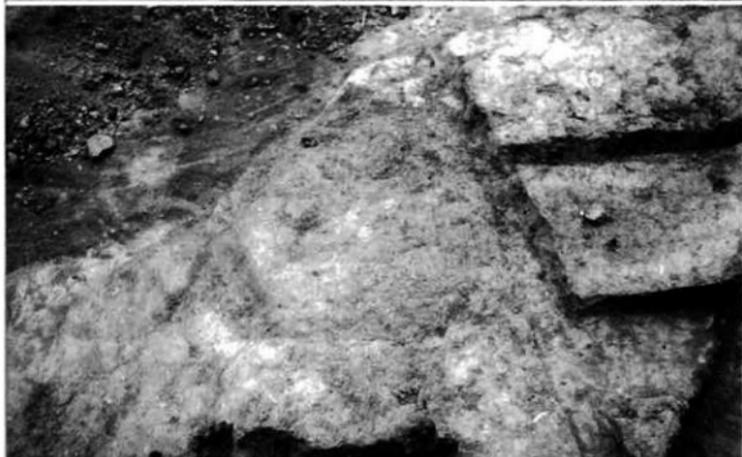
SH11 (東から)



掘立柱建物（北から）



集石土坑（西から）



焼土坑（北から）



盛土状遺構（南東から）



盛土状遺構（東から）



盛土状遺構土層断面  
（北西から）



大田和遺跡調査前B地区全景（東から）



大田和遺跡調査前B地区全景（東から）



大田和遺跡B地区調査後全景（南東から）



大田和遺跡B地区調査後全景（東から）



大田和遺跡B地区テラス状遺構（東から）



大田和遺跡B地区テラス状遺構（南から）



大田和遺跡B地区テラス状遺構（南から）



大田和遺跡B地区テラス状遺構（北から）



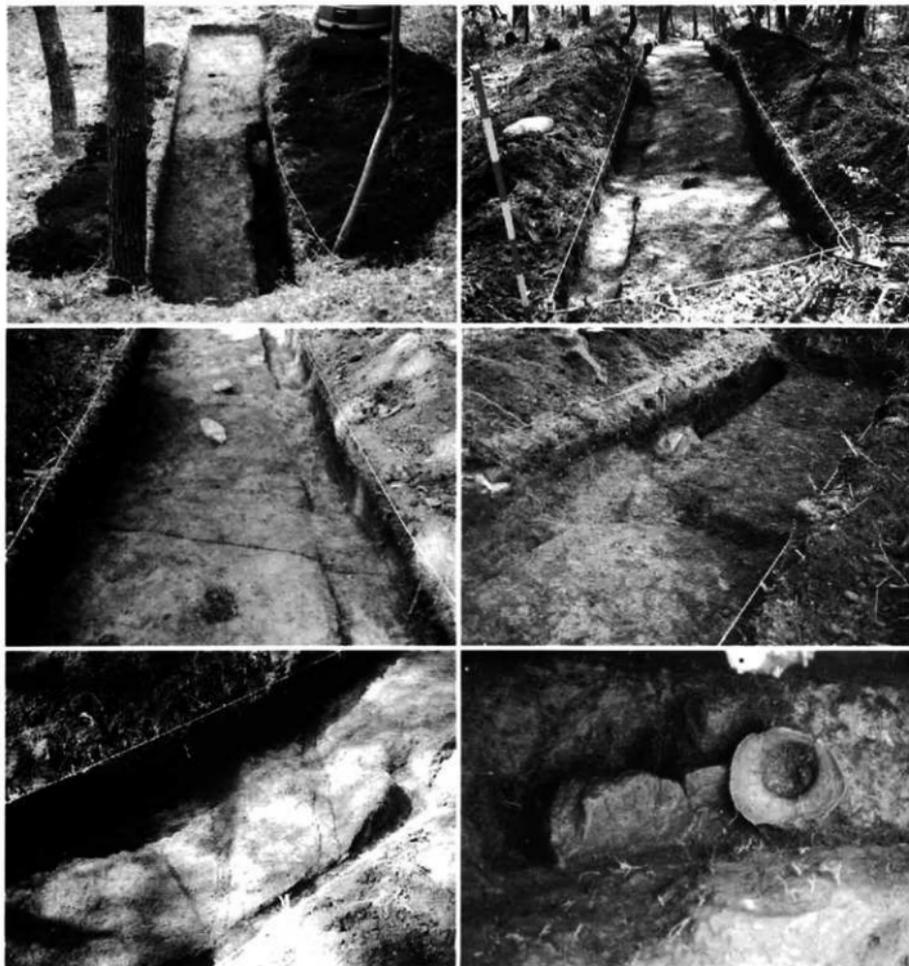
上 3号トレンチ全景(東から)  
下 3号トレンチSH08.09検出状況

上 3号トレンチ遺構配置状況(西半部)  
下 3号トレンチ土器棺検出状況



5号-1トレンチ全景

5号-1トレンチ周溝部



上 5号-2 トレンチ全景  
 中 12号 トレンチ満  
 下 16号 トレンチ住居跡壁溝検出状況

上 12号 トレンチ全景  
 中 16号 トレンチ住居跡検出状況  
 下 16号 トレンチ土坑内遺物検出状況



1



13



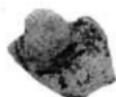
2



15



6



16



20



4



22



25



30



32



35



36



39



38



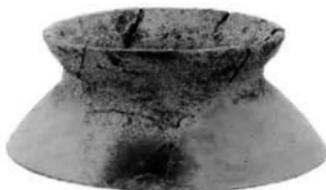
37



41



40



43



46



45



60



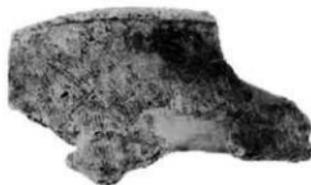
58



59



68



64



94



95



97



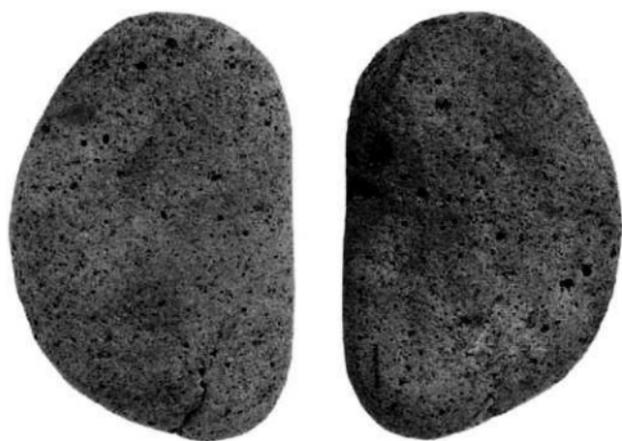
101



102



105



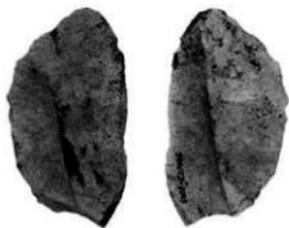
S1



S2



S3



S6



S 4

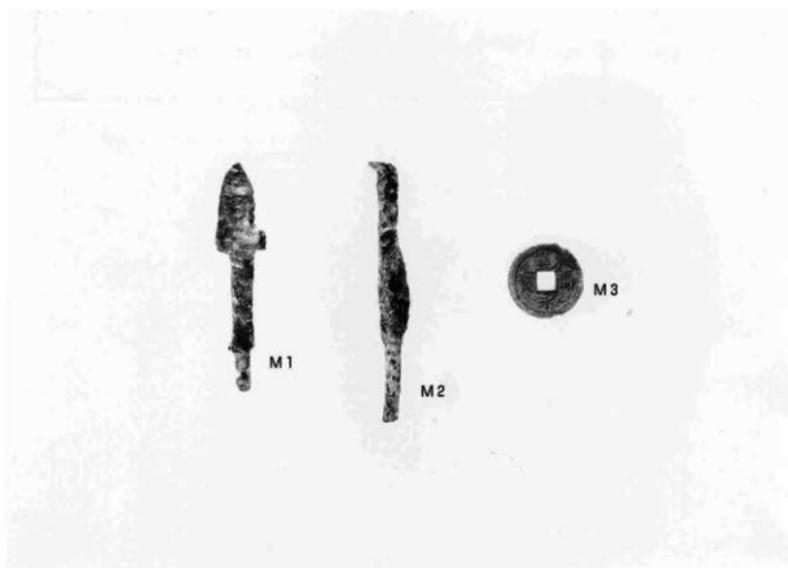
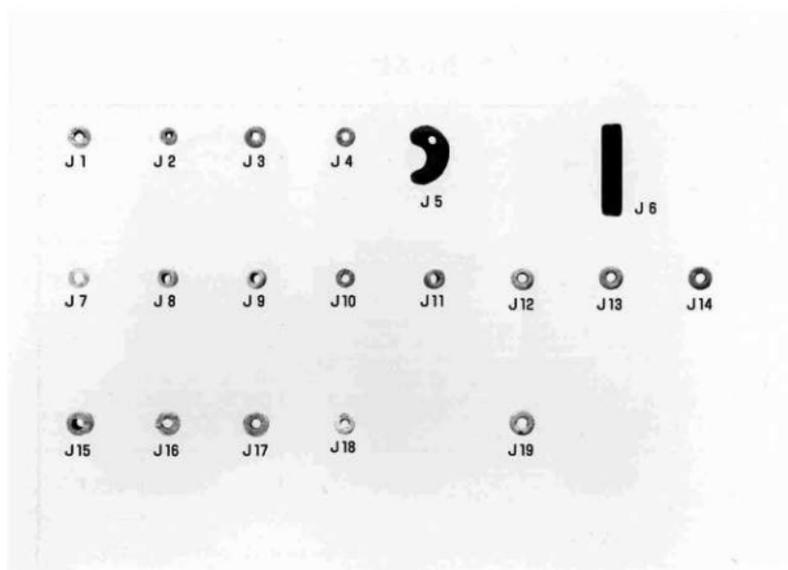


S 5



S7





出土玉類・金属製品

## 報告書抄録

ふりがな	おおたわいせき							
書名	大田和遺跡							
副書名	但馬長寿の郷建設事業に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第268冊							
編著者名	西口圭介、岡本一秀、藁科哲男							
編集機関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号 TEL078-531-7011							
発行年月日	2004（平成16）年3月19日							
ふりがな 所取遺跡名	所在地		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	市町村	遺跡調査番号						
おおたわいせき 大田和遺跡	ひょうごけん 兵庫県 やぶふち 養父郡 やうかちやう 八鹿町 こやま 小山	28601	960122	35度 29分 04秒	134度 44分 56秒	1996.05.15 ～ 1996.10.23	3119㎡	但馬長寿の郷建設事業に伴う
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大田和遺跡	集落跡	古墳時代 ～ 中世	住居跡 掘立柱 建物跡	須恵器・土師器・陶磁器				

---

兵庫県文化財調査報告 第268冊

## 大田和遺跡

—但馬長寿の郷建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

平成16年3月19日発行

編 集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所  
〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号  
TEL 078-531-7011

発 行 兵庫県教育委員会  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 交友印刷株式会社  
〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目4-5  
TEL 078-303-0088

---